

# 青森県獣医師会報

No.200

2024

## 目 次

### 〔資料〕

青森県獣医師会報200号の発刊によせて  
青森県獣医師会 会報200号の歩み  
青森県獣医師会 会報部会  
……………編集委員長 中島 聡…1  
会報発刊200号に思う  
……………青森支部 工藤 洋一…6  
会報部会への思い……………青森支部 沼宮内春雄…8  
令和6年度東北地区獣医師大会……………事務局…9  
令和6年度獣医学術東北地区学会  
日本産業動物獣医学会（東北地区）の概要  
日本産業動物獣医学会東北地区学会幹事  
……………林 敏展（中央家畜保健衛生所）…13  
日本小動物獣医学会（東北地区）の概要  
日本小動物獣医学会東北地区学会幹事  
……………竹原 律郎（ふれあい動物病院）…14  
日本獣医公衆衛生学会（東北地区）の概要  
日本公衆衛生獣医学会東北地区学会幹事  
……………宮村 尚道（青森県食肉衛生検査所）…17  
2024動物愛護週間中央行事  
2024動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary  
Day” が開催されました……………事務局…18  
青森県の犬飼育頭数を考える……………事務局…19  
動物愛護フェスティバル2024の開催について  
……………青森県動物愛護センター…25

ペンギンたちの個性あふれる換羽期の姿  
……………青森県営浅虫水族館 加藤 愛…27

### 〔臨床ノート〕

277号 播種型のGMEが疑われた  
MUOの犬1例……………30  
278号 悪性腫瘍の関連が疑われた  
肛門周囲の瘻孔……………32

### 〔会員だより〕

（一社）弘前市弥生いこいの広場と動物達の紹介  
……………弘前支部 豊澤 直子…34  
クマに出会ったときのことで  
……………上十三支部 小笠原清高…38

### 〔お知らせ〕

令和7年度 獣医師会検査員の募集について  
……………事務局…42

### 〔事務局だより〕……………43

### 〔編集後記〕……………46

獣医師会2024年のゴルフコンペの結果について  
……………青森支部 沼宮内春雄…47



令和6年10月15日

公益社団法人 青森県獣医師会



日本獣医師会・獣医師倫理綱領

## 獣医師の誓い—95年宣言

人類は、地球の環境を保全し、他の生物と調和を図る責任をもっている。特に獣医師は、動物の健康に責任を有するとともに、人の健康についても密接に関わる役割を担っており、人と動物が共存できる環境を築く立場にある。

獣医師は、また、人々がうるおいのある豊かな生活を楽しむことができるよう、広範多岐にわたる専門領域において、社会の要請に積極的に応えていく必要がある。

獣医師は、このような重大な社会的使命を果たすことを誇りとし、自らの生活をも心豊かにすることができるよう、高い見識と厳正な態度で職務を遂行しなければならない。

以上の理念のもとに、私たち獣医師は、次のことを誓う。

- 1 動物の生命を尊重し、その健康と福祉に指導的な役割を果たすとともに、人の健康と福祉の増進に努める。
- 2 人と動物の絆（ヒューマン・アニマル・ボンド）を確立するとともに、平和な社会の発展と環境の保全に努める。
- 3 良識ある社会人としての人格と教養を一層高めて、専門職としてふさわしい言動を心がける。
- 4 獣医学の最新の知識の吸収と技術の研鑽、普及に励み、関連科学との交流を推進する。
- 5 相互の連携と協調を密にし、国際交流を推進して世界の獣医界の発展に努める。

## 青森県獣医師会 会報200号の歩み

青森県獣医師会 会報部会 編集委員長 中 島 聡

青森県獣医師会会報が今号で200号を迎えるにあたって、今までの会報を振り返ってみました。最近の発刊ペースから計算すると年に4号として50年間の物語になると思っていました・・・

獣医師会事務局に初刊から、今号まで丁寧に整理、保管されておりましたが、本格発行(?)以前に15号の会報が存在しており、実質的には215号になるという事実いきなり直面することとなりました。

詳細はNo.50、No.100号に触れられていますので、興味のある方はバックナンバーを県獣医師会でご覧下さい。今回は多少の数字データを含めて振り返っていききたいと思います。

旧会報1～15号(1961年6月～1965年10月)  
「助走期?」

1948年に(社)青森県獣医師会が設立されて13年後の1961年6月にガリ版手書き謄写版印刷作り18ページの会報第1号が獣医師会事務局によって発刊されています。特に発刊理由は記されていませんが、当時の鎌田武利会長からの挨拶文の中に「学識の吸収及び技術を錬磨し、獣医師の社会的信用を高め、本会を魅力あるものにし、本会を愛し、もり立てたい」との記載が見られています。

1961年の第13回通常総会で発刊の提案が行われ1号から7号までは花田豊治先生が独力で作成、発行していたそうです。2号では編集室と名を変え、4号からは編集部野々宮市太郎先生を始めとした編集委員7～8名、事務局から1名の名前が見られています。編集部の正式発足は8号からと思われます。内容的には、5号から会員への原稿募集、6号から



記念すべき第1号



段々と印字が濃くなって・・・



ロゴが印刷された第8号

後書きが、8号から編集後記、9号から事務局通信（10号から事務局だより）と構成を手直ししながら、11号には総会での事業計画で会報の充実について提案されています。特筆すべきは、非常に早期のタイミングで原稿不足に悩んでいる状況が窺い知れます。

編集部が誕生した8号～13号では、表紙がツヤのあるコート紙となり、現在使用されている獣医師会のロゴが使用され始め、印刷業者や薬品関係業者等のコマーシャルが掲載されています（14、15号では初期のスタイルに、なぜか戻っていますが）。そして、1965年10月までの4年半で、11ページから30ページ程度の会報は日本獣医師会の情報や県獣医師会総会関係、研修会、発表会、個人の経験・調査研究、海外研修の参加募集や経験報告など資料関係が中心で、その他の内容は少ないものでした。

また、支部からの提出原稿が多く見られています。

発行頻度は2～9か月間隔で、年3、4回の随時発行でした。

原稿を集めるために、会報でアナウンスするほか、薬品会社や大学関係などから寄稿を求めたり、編集委員を支部単位で多めに任命し、自ら投稿して貰うなど苦労していた模様です。

## 新会報 1～27号（1967年6月～1981年3月：「創成期？」）

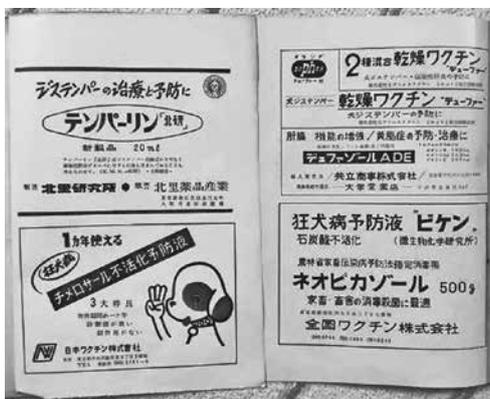
1年半後の1967年6月に満を持して第1号（ここからはNo. 1に改名）が発刊されました。

表紙は色つきツヤコート紙で、毎号色が変わり、獣医師会のロゴが現在に近い青森県地図と組み合わせた形となり、全文タイプ印刷になり野々宮市太郎先生が編集部会のリーダーとして挨拶を載せています。この1年9か月間は発行頻度5～7か月間隔で11～23ページ程度のボリュームでの発行になっていました。

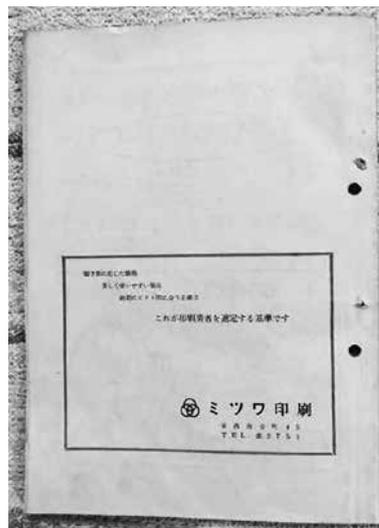
No. 6からは編集委員長が堀井廉治先生となり、編集委員が12人と増員され、冊子は「会報」から「青森県獣医師会報」という名称に変わりました。

表紙が薄いクリーム色の厚紙になり、ロゴの青森県地図と青森県獣医師会が分離し、目次が枠に囲まれ、CMの掲載が復活しました。原稿の投稿者は編集委員が中心となり、「支部だより」としての原稿が多く見られていましたが、事前の投稿依頼や自由投稿に薄謝（県獣医師会のタオルとか）を贈呈し始めていました。表紙の目次はNo.26から枠が無くなりました。

No. 9からは原稿を2段組としNo.12からNo.18ま



第8号 CM掲載開始 ↑ 薬品関係



↑ 印刷関係



ロゴが変わった新会報

では会報についてのアンケートを実施し、会員からの意見や方向性を収集集計し、会報で発表しています。

アンケートに回答をする会員は少なく、会報自体の方向づけにも苦労していた様子が窺えます。

No.11には規約が載せられ、当時本会に各10名前後で組織される事業部会、学術部会、会報部会の3部会が設けられていたことがわかります。この11年2か月間に発行頻度1～10か月間隔で全体のページ数は7～102ページ程度のボリュームで、そのうち資料関係が75～81%、発行は年1～3回の随時でした。この間に小動物部会、家畜共済部会が誕生しています。

内容的には県、日本獣医師会の動きや法律の改正、規約、ワクチン接種手数料の改訂などのアナウンス等が充実してきています。

また、発行当初からの大きなテーマとしては、獣医師の社会的地位、獣医師会組織率、加入率の引き上げや女性獣医師問題が提起されており、古くて新しい問題は姿を変えながら常に問題視されています。

この頃、県獣医師会の事業部会、学術部会、会報部会、小動物部会、家畜共済部会（小動物特別委員会、産業動物特別委員会）の活動報告についての記

載が見られています。前述のアンケートで特筆されるのは、会員だよりなどの投稿に対しての評価が意外に高かったことです。

#### 新会報28～50号期（1981年7月～1987年1月）

No.28から編集委員長が気田彦一先生となり、発行は年4回定期となりました。

13～78ページ程度のボリュームで、相変わらず原稿収集には苦勞し原稿募集のアナウンスを頻繁に発出していましたが、編集委員からの支部だより、会員だより、まげの声などの寄稿で乗り切っていたようです。

No.39では県獣医師会館竣工記事、No.41では組織財政委員会の設置記事がみられ、獣医師会は活動拡大していた模様です。

No.45から編集後記は複数名が担当し始めました。No.50では50号記念誌として10名の会員の方から記念寄稿を頂いています。

表 1 第1号～第15号からNo.1～No.50までの会報の概要

区分	サイズ	全 ページ	内資料関係(%)	その他記事(%)	特筆事項 1	特筆事項 2
旧1～15号	B5版	19.2	15.6(81)	3.6(18)	支部からの原稿が多い	発行主体、構成が変動気味
No. 1～5	B5	16.2	15.6(96)	0.6(4)	原稿お礼発生	(タオル等謝礼)
No. 6～27	B5	48.2	36.2(75)	12.0(25)	特集あり	理事会、総会等
No. 28～50	B5	33	26.6(81)	6.5(19)	原稿募集頻発 No.46でCM6社	No.45 から編集後記複数に

新会報51～99号期（1987年4月～1999年4月）

No.60からロゴが再び合体し、目次は1段組と2段組が混在しています。26～82ページのボリュームで総会関係の資料が目立ちます。No.70からは編集委員長が八重樫正彦先生となり、小動物、大動物、公衆衛生の特集号を企画しています。

No.77では会報掲載の可否判断が編集委員と会員で不公平が生じないか？また、投稿規定（要領）はあるのか？との質問により1995年7月27日に投稿規定が正式に策定されました。No.77発行時点での投稿不採用は僅か2件であり、編集委員からの投稿についての掲載可否について付度は無いし、会員である編集委員からの投稿は会報発行上不可欠との回答でした。

平成5年度の総会、平成7年度の理事会で女性獣医師特別委員会が定められ、その会合で平成7年6月15日に女性獣医師部会が発足しています。

今までB 5版だった会報がNo.91からA 4版になりました。

ロゴの変遷は特別な規程やオーソライズされたものは無く、聴診器に獣医師の英語表記Veterinarianの頭文字「V」をかたどったと思われる日本獣医師会のロゴと青森県地図を組み合わせたもののように

す。

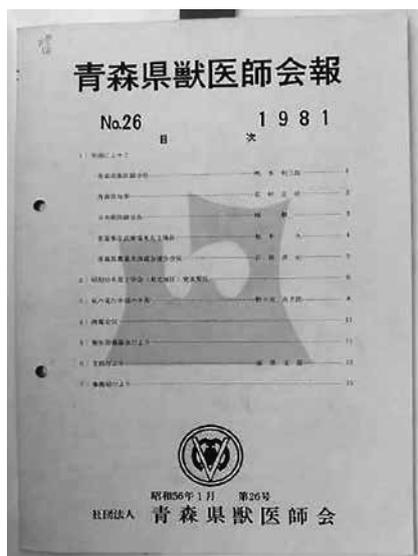
新会報100～163号期（1999年7月～2015年7月）

No.100から編集委員長が工藤洋一先生となりました。No.103から表紙の青森県地図に対してロゴが大きくなり、現在の本誌の表紙と同じ形になりました。

北里大学の先生方の絶大なる協力の基に、臨床ノートとしての投稿がNo.98から始まり、No.105からは毎号2題、No.111からNo.150までは毎号4題と学術面での充実が図られ、両面開きでのカラー印刷となりました。

その後は、毎号ほぼ2題、現在まで継続して投稿を頂いています。およそ青森県獣医師会報は学術刊行誌のような逐次刊行物としての国際的なISSN登録はされていませんが、研究者にとって何らかの参考文献としての引用価値はあるかもしれませんし、読者でもある獣医師にとって、何かと参考になる臨床例と思われます。

No.128前後から愛護センターだよりと食鳥検査メモを継続的に投稿頂き、県の動物愛護センターの建設や、県獣医師会での食鳥検査センター事業開始などタイムリーな話題の提供が目立っています。



No.106から原稿募集のアナウンスと本誌の投稿規定が頻出しています。編集後記は委員長1名の文責となりました。表1と表2は会報の区分を勝手にカテゴリ化させて頂きました。どちらかというと学識的、獣医師会に關係する部分を資料関係とし、会員からの提言や趣味の話等をその他とするとNo.50までは前者が中心で、その後はその他部分が増えてきている感じがします。

#### 新会報164～178号期（2015年11月～2019年4月）

沼宮内春雄先生が編集委員長となり、公務員獣医師などの新入会員等から自己紹介を頂戴し、会員同士の認知を高める記事を掲載しています。日獣の情報は日本獣医師会雑誌、総会関係資料は総会時事前配布資料にシフトし、ページのボリュームは22～48ページと安定し、特にその他記事部分の割合が増えてきています。文章は全面1段組みとしています。編集委員の人数はNo.118頃から漸減し、かつての8～10名の支部単位ではなく、職域単位傾向の5名となっています。

#### 新会報179～200号期（2019年7月～2024年10月）

中島聡が編集委員長になり、前委員長の態勢を維持しつつ、基本を2段組みとし、1段組みも併せて採用する現在のスタイルに至っています。

印刷費用の削減のため装丁も袋綴じ印刷としています。ページのボリュームは29～46ページと更に安定し、特にその他記事部分の割合が前期と全く同じとなっており、会員からの投稿が増えています。

前述しましたが、再度お知らせすると・・・No.50とNo.100に会報の振り返りが詳細に記載されていますので、興味のある方は県獣医師会事務局でご覧下さい。

当初想定より長い63年間200（215）号続いてきた会報ですが、今後どのように続けていくか、現会報部会と獣医師会事務局で検討していく予定ですので、建設的なご意見を頂ければ幸いです。

表 2 No.51～No.199までの会報の概要

区分	サイズ	全 ページ	内資料関係(%)	その他記事(%)	特筆事項 1	特筆事項 2
No.51～99	B 5 版	47.8	31.4(66)	16.5 (34)	県獣総会資料、支部だより、部会報告	会報投稿規定 共済制度 ペンネーム増える
No.100～163	A 4	46	32.5 (72)	13.5 (28)	日獣、県獣総会資料 動愛、食鳥	編集後記1名臨床 ノート
No.164～178	A 4	36.5	21.0 (57)	15.5 (43)	1段組み冊子	支部だより減
No.179～199	A 4	39.2	22.5 (57)	16.7 (43)	再度2段組み、装丁 袋折りに変更	

# 会報発刊200号に思う

青森支部 工 藤 洋 一

一口に200号と言っても組織の会報発刊数としては素晴らしいことであると思われる。

## 「200号よくもこれまで200勝」

プロ野球での200勝投手という中々存在しないし大偉業である。会報の200号もコツコツと積み重ねての発行は大きな業績と言って良いと思われる。第1号の発行が昭和36年6月（1961年）であることからすると63年間続いたことになる。年間の発行回数が原稿の集まり方によって多かったり少なかったりしたことはあるが平均すると年間3～4冊程度、よく続いたものである。長い間、会報部会員として携わってきたこともあり多くの思い出がある。

## 「原稿をお願いすれど集まらず」

会員の親睦と情報の場づくりとして始まった会報であるが原稿が中々集まらず苦勞が絶えなかった。会員にとっては仕事の合間をみて慣れていない原稿を書いて投稿するという事は並大抵のことではなかったようである。

原稿用紙に書きなれていないため便箋やメモ用紙で出してくる会員もあり、それを定められた用紙に書きなおして編集する。それでも原稿が集まればよいのだが不足分は編集委員が率先して書くことになり、そのために多いときには会報部会員が13名の大所帯の時もあった。

原稿の内容は、最初のうちは日頃の診療経験談など失敗例や思わぬ効果があった治療例など農家との触れ合いみたいなことが多かった。今のように情報ネットの普及が進んでいないこともあり会報は隔から隔まで目を通し楽しみにして待ち望んでいたことを覚えている。

## 「今は亡きマンジャク先生懐かしき」

原稿の中で特に記憶に残っているのはマンジャク診療譚（故堀内浩先生）の原稿であった。

獣医的視点で農家との触れ合いを書いたものだがユーモアがありちょっぴりエロチックな内容には非常に人気があり楽しく拝読したものである。この次にはどんな内容が掲載されるか期待して待っていたことを鮮明に覚えている。

## 「原稿は思いをこめて編集し」

発刊にあたって当時としては、会報づくりは大変なことであった。

現在のようにパソコンや印刷技術の普及・進歩していないときのことであり手作りの会報であった。

原稿はそれぞれの用紙（原稿用紙、時には便箋等）に書いて送られてくる。集まった原稿はまとめて整理し読み合わせをして不明な点があれば問い合わせさせて書き直し、内容ごとに資料、会員だよりなどに分類して割付をする。原稿字数を計算し紙面の空白を出来るだけなくするため予備の短文をそれぞれに用意し埋め合わせをする。印刷されたものは誤字脱字がないか、何度もチェックする。

不慣れなこともあり一冊の会報づくりには結構な労力を要したものだだった。それでも二校、三校を経てそれなりに会報の形になってくると非常に嬉しかった。

## 「会報は記録と思いを残すもの」

会報としての使命はなんだろう、時間と経費をかけて、こんな小冊子をとることが多かった。

しかし200号発刊を迎えて『継続は力なり』ということを感じている。

記録として残す。会報には会員の業績としての調

査研究内容や獣医師会としての事業内容、予算などが残されている。

県獣医師会60周年の記念誌を作る際に会報が非常に参考になったことを述べておきたい。

#### 「これだけはいつも気になる臨床ノート」

会報の中で獣医師にとって最も気になることが「臨床ノート」であった。カラーの写真入りで珍しい症例が掲載されている。

199号現在で症例276号、県内外の人達からも非常に参考になったという声を聞いている。

#### 「会報に昔の馬医のドラマみる」

会報の中でいつまでも記録として残しておきたいものの中に故堀内浩先生の調査ものがある。

津軽藩の馬事馬医（第44号）明治以前の馬医とそ

の背景（第48・49号）その他、昔の馬事馬医に関する調査物である。

古文を読み解き整理し会報に投稿してくれた。これらは素晴らしいものであった。

#### 「思い出の楽しさ匂う会報誌」

会報の中に思いを残す。趣味、旅行、経験などを紙面に残す、個人的な満足になるかも知れないのだが、お互いの思いを公表する場としての会報は意義がある。

前述のマンジャク診療譚などは獣医師本来の仕事を思い出させるものであったと思っている。

文字ばなれが進み、400字詰め原稿用紙に触れることがなくなった現在、自分の思いを残す場としての会報が会員皆さんから愛されることを願っている。



# 会報部会への思い

青森支部 沼宮内 春 雄

会報が今号で第200号とのこと、長年にわたり委員として関わった一人として先人の部会長と委員各位に感謝と敬意を申し上げます。

部会では先輩方の愉快的雑談や各地での話題が面白く有意義なひと時を経験させて頂きました。私が部会長を命じられたのは2016年（平成28年）3月当時の山口事務局長からです。前年秋、デビューした県産米「青天の霹靂」にちなんでびっくりしたことが思い出されます。部会長としては前任の工藤洋一さんの継承と各委員の協力及び事務局の支援により運営することができました。

年4回の発行のつど数回部会を開催し、一人でも多くの会員に見てもらうため県獣医界に係る出来事、情報「資料・臨床ノートなど」及び会員だよりについて委員各位と協議しながら編集・校正していました。ときには執筆者への配慮を欠いたことや、また編集後記は当該号とは異なる文面もありました。今思うと赤面の至りであります。

この間、特に2019年（平成31年）3月「県獣医師会70周年記念誌」の発刊には小山田会長の指示のもと各支部、産業動物、公衆衛生、小動物、食鳥関係

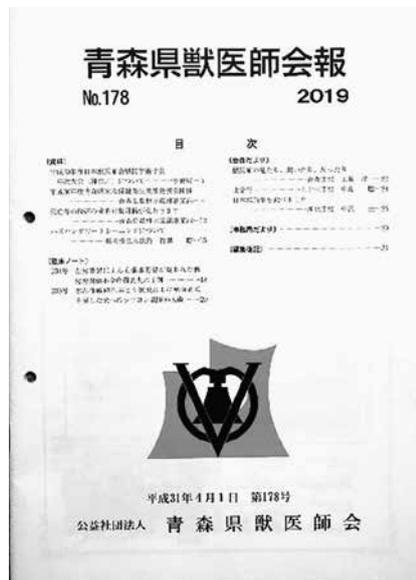
者の寄稿依頼及び会員の声を賜りつつ、原稿依頼と資料の収集に戸惑いながらも委員各位と編集できたことは、良き思い出として懐かしく感じております。

この10年前の「60周年記念誌」の発行にも委員として携わっていたことが70年誌の編集に、その経験を少し役立てることができたと考えています。

その60年誌に会員の一言メッセージがあり、このたび久しぶりにそのメッセージを読むと皆さん獣医師としての誇りと生きがいを見ることができ、故人の方や今もご活躍の方などいわゆる温故知新を感じています。

私の定年時でもありましたのでその思いはひとしおであります。現在、中島さんが部会長として編集を担当し新たな会報スタイルが模索され、二次元バーコード等の検討など更なる進化をしていくことに期待しています。

来年、2025年は昭和100年、昭和も遠くなりつつありますが令和の獣医師会報は会員の情報源として、また広場として、今後とも活用・発展されることを希望します。



沼宮内編集長 & 平成最後の会報

現在と同じく  
地図に占める  
獣医師会ロゴ  
が大きい

# 令和6年度東北地区獣医師大会

事務局

## 1 はじめに

令和6年9月24日（火）、ホテル青森にて令和6年度東北地区獣医師大会が盛大に執り行われました。大会参加者数は247名で、本県からは35名の会員が参加しました。



来賓控室での蔵内会長と宮下知事の名刺交換

午後1時から式典が始まり、大会会長の青森県獣医師会の小山田会長、日本獣医師会の蔵内会長の挨拶に続き、令和5年度の獣医学術東北地区学会賞5演題及び東北獣医師会連合会長賞3演題に対する褒章授与式が執り行われました。

来賓として農林水産省消費・安全局長、環境省自然環境局長、厚生労働省健康・生活衛生局長（以上、代理出席）、続いて宮下宗一郎 青森県知事及び西 秀記青森市長から祝辞をいただきました。

その後、要望事項の議事に入り、全会一致で可決されました。



## 2 議事

議長に青森県獣医師会の豊沢副会長が指名され、日本獣医師会に対する要望として次の2題が提案され、満場一致で承認されました。



蔵内会長の挨拶

### ◆ 産業動物臨床獣医師確保の重要性について

（公社）福島県獣医師会

（要旨）

産業動物臨床獣医師は各種疾病対策のほか畜産経営の維持発展に欠くことのできない重要な役目を担っているが、開業獣医師の高齢化や農業団体等の勤務獣医師不足により、過密診療、遠距離往診、夜間問診対応等の負担が増大していることから、以下の3点について関係機関へ要望していただきたい。

- ① 遠隔診療や地域偏在化対策等のため、ICT技術を活用した設備や機器を整備すること。



- ② 産業動物臨床獣医師の安定確保のため、勤務獣医師の処遇改善、雇用側の農業団体等への助成、開業獣医師を含めた税制優遇措置を図ること。
- ③ 魅力ある職域であることの情報発信と、食料安全保障に資する獣医師の重要性を消費者や教育現場に周知及び理解醸成を図ること。

◆ 日本愛玩動物看護師会の設立に向けて、最大限の支援と協力を (公社) 仙台市獣医師会 (要旨)

令和4年6月に動物愛玩看護師法が施行され2年が経過したが、職域の明確化と獣医師と一体となったより良い動物医療体制を創造していくにあたり、職域団体である「愛玩看護師会」の設立は喫緊の課題である。

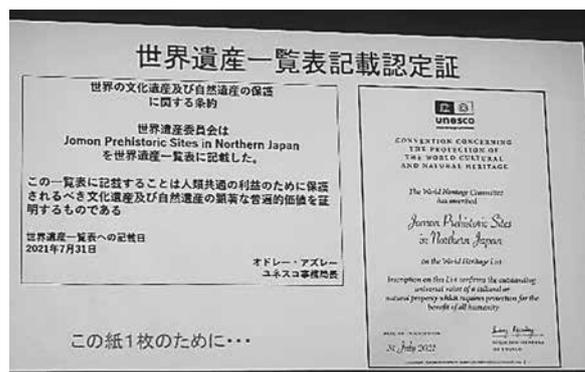
そこで、その業務内容に関しては、指示・指導する立場にあるのは獣医師であり、獣医師会であることから、日本獣医師会の中に専門委員会を設置するなどして、できる限り早期の「愛玩看護師会」の設立への支援・協力に向けた取組を開始することを要望する。

### 3 市民公開特別講演

演題：縄文人と動物たち

講師：三内丸山遺跡センター所長 岡田康博先生 (要旨)

「北海道・北東北の縄文遺跡群」は2021年7月、ユネスコの世界遺産に登録されたが、専門機関の審査が厳しく登録されるまでに16年の歳月がかかった。遺跡の中でも特に遺跡の国宝とも言われる特別史跡であり、1年間の来訪者数も23万人以上となっている。



世界遺産認定証（左が日本語訳、右が原本）

縄文時代は約15,000年前から約2,400年前まで続いた狩猟・採集文化の時代で、この地域の平均気温が今よりも2℃高く、現在の仙台から福島地域の気温であり、海水面が上昇し内湾や入江の形成など、大きく環境の変化をもたらした。このことにより、海や森の豊かな資源を利用する機会が増え、狩猟、採取や漁労を基盤として、定住が開始した。土器や弓矢などの道具も出現し、利用可能な資源の範囲を拡大することに大きく貢献し、生活の安定をもたらした。特に土器は北東アジアでは最古級のものであり、煮沸や貯蔵を容易にした。調理方法としては煮る、蒸すなどが基本で、味付けは塩や油などが利用され、甘味は少なかったと考えられる。

疾病関係では性病や結核はなかったが、鞭虫などの寄生虫卵が確認されており、寄生虫病に悩まされていたのではないかと思われる。虫歯は北海道地方では少なく、本州では多いことから、北海道ではタンパク質の食料が多く、本州ではデンプン質の食料が多かったのではないかと推測される。

貝塚では鹿の角、魚の骨を加工した釣り針や縫い針、ホタテ貝、植物の実や種、瓢箪などが出土して

いる。

動物ではノウサギ、ムササビ、ニホンジカが多く出土し、毛皮の利用も考えられた。また、マイワシ、イナダ、サバ、ニシンなどが出土し、特にマダイは1m以上の大型も発見されている。

犬については、狩りのお供や番犬としても活躍したようで、死んだ際に墓を造り、人と一緒に特別に埋葬されていることから、現代のように家族の一員として大切にされていたのではないかと考えられている。ただし、弥生時代になると食料としても利用されている。

ちなみに、馬や牛、豚、鶏、猫はおらず、馬や牛は稲作が始まると同時期に大陸から入ってきたようだ。

現代の私たちの暮らしと動物たちのかかわりは縄文時代に始まったものもあり、動物たちの行動から学んだことも少なくなかったかのように思うし、自然の一員としての大きな責任もまた問われる時代になっているように思う。動物たちは単に人々の命をつなぐためだけではなく、友や家族として心の支えともなっており、自然とともに生きる一員として位置付けていたものと思う。

## 4 教育講演

演題：獣医療をめぐる情勢～獣医師に求められる倫理観や最近の獣医療体制について

講師：農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課 課長補佐 大倉尚子 先生

(要旨)

獣医師数の活躍分野の割合は、令和4年では小動物診療が40.9%、公務員が22.6%（農林水産分野8.2%、公衆衛生分野13.3%、その他1.1%）、産業動物診療が11.0%などとなっている。過去10年間で小動物診療獣医師の割合は増加傾向にあるが、産業動物獣医師の割合は横ばいである。なお、新卒獣医師は45%程度が小動物診療に就職する一方で、実際の小動物診療就業従事者は40%となっており、乖離が

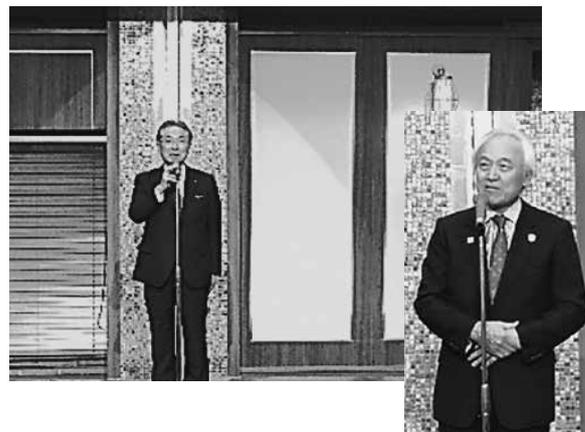
見られる。

愛玩動物看護師の登録者数は令和6年9月1日時点では21,689人で、獣医師と飼養者の「繋がり：要」としての役割が期待されており、法施行後5年をめどに愛玩動物看護師制度のあり方について検討結果を取りまとめることになっている。

獣医療広告制限については、飼養者等を誇大な広告等から保護するために規制を行っているが、愛玩動物看護師制度の開始や情報発信媒体など大きく変化していることから、見直しを行った。（令和6年4月施行）

## 5 交流会

青森県獣医師会の小山田会長、日本獣医師会の蔵内会長、日本小動物獣医学会長の佐藤れえ子先生の挨拶に続き、日本獣医師会の伏見専務理事の乾杯で開演となりました。（参加者約120名）



日本獣医師会伏見専務理事の乾杯挨拶

## 令和6年度 東北地区獣医師大会 交流会



余興（津軽三味線奏者相澤さんと妹弟子の演奏）

## 6 おわりに

来年度の東北地区獣医師大会は、秋田県獣医師会の主催で令和7年10月9～10日、秋田駅から徒歩7分の秋田キャッスルホテルにて開催される予定です。

また、第41回世界獣医師大会が令和8年4月に東京国際フォーラムで開催される予定です。前回の横浜大会から31年ぶりの日本での開催で、またとない貴重な機会と思いますので、是非とも皆様のご参加を期待しています。



# 令和6年度獣医学術東北地区学会・日本産業動物獣医学会（東北地区）の概要

日本産業動物獣医学会東北地区学会幹事 林 敏 展

(中央家畜保健衛生所)

令和6年9月25日（水）、青森市のホテル青森において、令和6年度日本産業動物獣医学会（東北地区）が開催されました。私はこれまで本学会で講演させていただく機会はございましたが、今回、初めて地区幹事として参加いたしましたので、その概要をご報告いたします。

学会は、地区学会長及び学会長のご挨拶から始まり、昨年度の奨励賞の表彰に続いて、全22演題の講演が行われました。各講演の時間は8分、質疑討論は2分で構成され、診療の先生方から6演題、大学の先生方から6演題、家畜保健衛生所の先生方から10演題が発表されました。

講演の内容は、診療現場における最新の実証や応用可能な技術、大学での臨床試験や研究成果、家畜衛生に基づいた検査やその対応策、さらに新たな検査法の開発など、多岐にわたっていました。産業動物獣医師としての活動において大変有益で、興味深い内容が多く含まれており、非常に刺激を受ける学会となりました。

特に、牛伝染性リンパ腫の生前診断法として近年注目されているインバースPCR法の検証に関する報告は、私が従事している家畜衛生分野においても非常に関心を引きました。また、各講演後の質疑討論も非常に活発で、研究の効果をより明確に検証するための試験区設定の重要性に関する大学の先生からの助言や、現場の経験に基づいた診療の先生方の具体的な意見が交わされ、充実した情報交換の場になっていました。

講演終了後には、地区学会幹事による選考委員会が開催され、厳正な審査の結果、学会長賞を含む4題が選出されました。

## ○獣医学術東北地区学会長賞 2題

演 題No.5

血清Brix値からみた黒毛和種子牛の初乳給与方法の検討（佐伯健太郎ら、宮城県農共県南家畜診）

演 題No.18

血液を材料としたインバースPCR法による潜在的牛伝染性リンパ腫発症牛の生前診断法の検討

（高橋宏充ら、山形県中央家保）

## ○東北獣医師会連合会長賞 1題

演 題No.6

黒毛和種子牛における生理的貧血の調査

～鉄剤投与効果の検討～

（古田紗也加ら、宮城県農共県南家畜診ほか）

## ○獣医学術東北地区学会奨励賞 1題

演 題No.17

岩手県内の養豚場における日本脳炎の発生と浸潤状況（原田志乃ら、岩手県中央家保）

今回の学会を通じて、産業動物獣医師には広範かつ深い知識と技術が求められることを改めて実感いたしました。

今後も多くの先生方による研究成果の発表を期待するとともに、産業動物獣医学会がさらに発展し、ますます活発な場となることを祈念いたします。



日本産業動物獣医学会の会場

# 令和6年度獣医学術東北地区学会・日本小動物獣医学会（東北地区）の概要

日本小動物獣医学会東北地区学会幹事 竹原 律 郎

(ふれあい動物病院)

令和6年9月25日にホテル青森を会場に、令和6年度の日本小動物獣医学会東北地区が当獣医師会の担当で開催されました。

東北地区学会会長である北里大学の岡野昇三先生から開会の挨拶があり、日本小動物学会会長の佐藤れえ子先生の挨拶、褒章授与などが行われました。午前の講演、お昼はお弁当、お茶の企業提供によるランチオンセミナーが行われました。『ペットの気になる5つの健康ニーズに対する栄養を1つにまとめた、「マルチケア栄養食」とは?』のタイトルで日本ヒルズコルゲート株式会社 糸井未紀先生に講演して頂きました。

午後、講演も滞りなく進み、ほぼ時間通りに進行し拍手をもって学会終了することができました。この後、学会選考委員会が開催され、学会会長にも参加頂き受賞演題を決定しました。

## 各獣医師会の演題数（計29題）

青 森	岩 手	宮 城	秋 田	山 形	福 島	仙台市
8	8	3	3	2	3	2

## 青森県からの発表演題（計8題）

- 1 術後リン酸トセラニブとマイタケエキス粉末によりQOLが維持できた猫の舌扁平上皮癌の1例

土田靖彦ほか、ごり動物病院

- 2 超音波による犬の気管チューブサイズの子測について

竹原律郎、ふれあい動物病院

- 3 イヌの永久気管切開症例1例における術後管理の考察

米谷拓己ほか、北里大・小動物第2内科

- 4 尿路上皮癌が角膜実質内に転移した犬の一例

杉内美咲ほか、北里大・小動物第2内科

- 5 デクスメデトミジンの静脈内投与方法による圧受容感度（BRS）の比較

太田虎之介ほか、北里大・小動物第2外科

- 6 イヌにおけるアドレナリンおよびフェニレフリン経鼻投与が鼻粘膜の血流に及ぼす影響

木屋友馨ほか、北里大・小動物第2外科

- 7 イヌにおける尾側方向への腰椎硬膜外投与の適応と効果

富永寿々菜ほか、北里大・小動物第2外科

- 8 下垂体性矮小症が疑われた猫の1例

新島 亮ほか、北里大・小動物第2外科

## ○獣医学術東北地区学会会長賞（2題）

- 1 肺リンパ腫に伴う肺静脈狭窄症を呈した猫の一例

内田貴子ほか、岩大・小動物内科

- 2 犬の大動脈体腫瘍の15例の診断と経過と治療に関する考察

田口大介ほか、グリーン動物病院・岩手、青森県

## ○東北獣医師会連合会長賞（1題）

犬70頭140眼の角膜知覚検査における回顧的研究  
高橋大樹ほか、上杉動物眼科クリニック・仙台市

## ○獣医学術東北地区学会奨励賞（1題）

尿路上皮癌が角膜実質内に転移した犬の一例  
杉内美咲、田島一樹、安藤 亮、岡田大輝、  
山下洋平、市川陽一郎、大高裕也、金井一  
享、北里大・小動物第2内科ほか

### 発表概要について

褒章演題は、学会長賞2題、地区学会賞1題、奨励賞1題が選出されました。当獣医師会所属の北里大学小動物第2内科の杉内美咲先生が奨励賞を受賞されました。おめでとうございます。

腫瘍関連7演題、呼吸器5、循環器2、整形2、麻酔2、エキゾチック2など、例年通り各分野の多岐にわたる発表がありました。

例えば、左肺リンパ腫による肺静脈狭窄症により肺高血圧症を呈した猫の珍しい報告、犬の心臓の大動脈体腫瘍15例の報告では、個々の詳細な経過と血栓により深刻な痙攣、後駆麻痺の合併症が5例みられたこと、犬の角膜知覚検査データを集めた研究で

は、加齢とともに角膜知覚の低下が明らかになりました。犬の尿路上皮癌が角膜組織に転移診断された珍しい症例の報告、ネコの関節炎の治療薬であるフルネボトマブ（抗NGFモノクローナル抗体製剤）を歯頸部吸収病巣に用いて鎮痛が得られた報告などがありました。

詳しい疾患の情報、新しい検査方法、薬剤の新しい使用経験など、参考になる知識が得られる発表内容でした。

### 東北地区学会について

地方学会ということもあり、温かい雰囲気がこの地区ならではのと思われます。リクルート系のいで立ちの若手の参加が目立つのも特色です。北里大学と岩手大学の獣医学科生や大学院生の方が参加されて、発表の機会が得られるのも身近な地区学会ならではのでしょう。

参加や発表されることで日常の業務、研究、学業のモチベーションアップにつながったのではないのでしょうか。

昨年は、42演題と多くあり進行、運営がタイトでしたが、大学の先生方の調整により今年は29演題となりゆったりと進行できました。



日本小動物獣医学会（東北地区）発表会場

青森県は、合計8演題で昨年より減り、北里大学6演題、開業獣医師2演題となりました。開業医の先生が発表して下さり、よりバリエーションが出た様に感じました。来年も会員の皆様には、日常業務が多忙だとは思われますが、ご参加、ご発表、ご協力をお願い致します

個人的には、幹事2回目で少し慣れてきましたが、今年は審査のほかに発表もさせて頂きました。インプットもアウトプットもあり、慌ただしく大変ではありましたが、経験と学びが一段と多い機会となりました。学会内容で、日常業務に試してみたいこと、スライドの作り方を真似てみたいものもみつき、非常に有益でした。貴重な機会を頂き、ありがとうございました。

## 謝 辞

日本獣医三学会および地区学会の役員の先生方、獣医師会運営の方々、参加して下さった先生方、そして渋谷憲司先生には小動物学会進行責任者として特にお世話になりました。

盛会に終わることができ、感謝いたします。ありがとうございました。



岡野地区学会長の挨拶



# 令和6年度獣医学術東北地区学会・日本獣医公衆衛生学会（東北地区）の概要

日本公衆衛生獣医学会東北地区学会幹事 宮村 尚道

（青森県食肉衛生検査所）

令和6年9月25日（水）ホテル青森（青森市）において、令和6年度獣医学術東北地区学会が開催されました。

当日は、学会開催に先立ち令和6年度獣医学術東北地区学会実行委員会が、産業動物、小動物、公衆衛生合同で開催され、その後部会毎に分かれて打合せを行いました。公衆衛生部会では佐藤至東北地区学会長から幹事に対し、座長としての学会進行及び審査員としての演題審査（共同研究者となっている演題については審査対象外であること）について説明がありました。

学会は予定どおり午前9時から始まりました。佐藤東北地区学会長の挨拶、荻和日本獣医公衆衛生副学会長挨拶の後、昨年度の獣医学術東北地区学会奨励賞を受賞した仙台市食肉衛生検査所他の「と畜場における牛伝染性リンパ腫の発生状況と組織型について」が表彰され、18演題の発表がありました。内容は微生物、理化学、病理、動物愛護等幅広い内容であり、あらためて公衆衛生学は奥深い学問であると感じました。

演題発表終了後、学会選考委員会が開催され、次の各賞が決定しました。

## ○獣医学術東北地区学会長賞

2023年の馬刺しによる腸管出血性大腸菌食中毒の原因追及

山形県衛生研究所 鈴木 麻友 ほか

## ○東北獣医師会連合会長賞

馬の腹腔内に多発性にみられた血管平滑筋肉腫の一例

福島県食肉衛生検査所 渡辺 真弓 ほか

## ○獣医学術東北地区学会奨励賞

と畜場における馬のEHEC汚染リスク調査

山形県置賜食肉衛生検査所 野中 基弘 ほか

受賞された方々、誠におめでとうございます。

また、日常業務が多忙なところ調査研究に多大な時間を費やし、発表いただいた皆様に感謝申し上げます。

最後に、今後も多様な調査研究成果が発表されることを期待しています。



獣医公衆衛生学会東北地区学会長 佐藤 至 先生の挨拶

# 2024動物愛護週間中央行事 2024動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day” が開催されました

事務局

令和6年9月21日（土）10時から17時にかけて、公益社団法人日本獣医師会主催で2024動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day” が開催されました。会場は「東京都世田谷区、駒沢オリンピック公園中央広場」で、開催テーマは「動物と人の健康は一つ。そして、それは地球の願い」です。



藏内会長の挨拶

10時から公益社団法人日本獣医師会 藏内勇夫会長の挨拶に続き、林 芳正官房長官、河野太郎デジタル大臣、森 英介元法務大臣、河西宏一衆議院議員、古屋節子衆議院議員、片山さつき参議院議員、有村治子参議院議員、保坂展人世田谷区長など多くの方々から祝辞がありました。その後、日本獣医師会砂原和文副会長（秋田県獣医師会会長）が開会を宣言しました。



来賓の皆様

2024動物感謝デー in JAPANでは、獣医師の仕事や家畜や愛玩動物の病気、ヒトと動物との関係、薬剤耐性に係る対策などをステージイベントやブース展示などを通じて紹介していました。日本獣医学生協会（JAVS）ブース、獣医系大学ブース（学校紹介・受験相談）、1日獣医師体験、馬の展示やふれあい、お酒や果物の販売なども行われており、多くの来場者の方々がステージや各ブースを回って楽し

んでいました。

青森県獣医師会では東北獣医師会連合会の一員として、東北各県・仙台市獣医師会とともに東北の観光をアピールするためブースを出展しました。青森県観光国際戦略局誘客交流課から提供された観光ポスターをブースに掲示し、400人分の観光パンフレットと「ねぶたの鈴」を訪れた方々に配布し青森県の魅力を売り込みました。また、リンゴ缶ジュース300個を用意し“青森りんごの美味しさ”を紹介しました。

東北各県・仙台市獣医師会も観光パンフレット等の他、南部煎餅、仙台まころん、“さきほこれ”のパックご飯、トマトジュース、でん六豆、ももジュースなど各県の特産品を無料配布し観光宣伝に努めていました。

展示開始とともに東北獣医師会連合会のブースには行列が出来、来場者は特産品の無料提供に非常に喜んでいました。

大好評のうちに、開始2時間程度で用意された全ての物がなくなり、午後からはポスター展示のみとなりました。

東北獣医師会連合会のブースには、来場者の方々が次々と訪れ盛況のうちに終了しました。



来場者に対応する伊東さん

# 青森県の犬飼育頭数を考える

事務局

令和6年5月、国立社会保障・人口問題研究所は、全国の人口推定統計を発表しました。研究所では、2020年の国勢調査の結果を基に推定したとのこと。

人口推定統計の一部をグラフ化したものを図1に示します。人口推定統計によると青森県の人口は、2020年に約124万人だったものが30年後の2050年には、約48万人減少しおよそ76万人になると予想されています。また、15歳から64歳までの生産年齢人口も、ほぼ同じ減少率で推移し33万人になると推定しています。さらに、65歳以上の高齢者の割合は2025年に4割を超え、2050年には48.8%と県人口の約半数となるそうです。

この推定統計は、人口学的手法（コーホート要因法）に基づき、人口変動要因である出生、死亡、国際人口移動に関する統計指標動向数理モデル等を応用して条件的推計をしているそうです。

何やら、凡人には分らない非常に難しい統計手法

を用いて推定し、さらに数人の統計学者が検証し精度を確保しているそうです。

それでは、犬の飼育頭数の推移はどうなるのでしょうか。獣医師会事務局には、統計に詳しい者もおらず、今後の犬の飼育動向など統計的に処理することはできませんが、何となく想像できるのではないかと考えました。

それでは、犬の飼育頭数と狂犬病予防接種の状況が今後どのようなことになるのかを考えてみます。

## 1 犬の飼育頭数

犬の飼育頭数を確認する方法はあるのでしょうか。

Web上には、厚生労働省が公表している犬の登録頭数と一般社団法人（以下、（一社））ペットフード協会が行った全国犬猫飼育実態調査（アンケート調査）による推計値が掲載されており、それぞれの

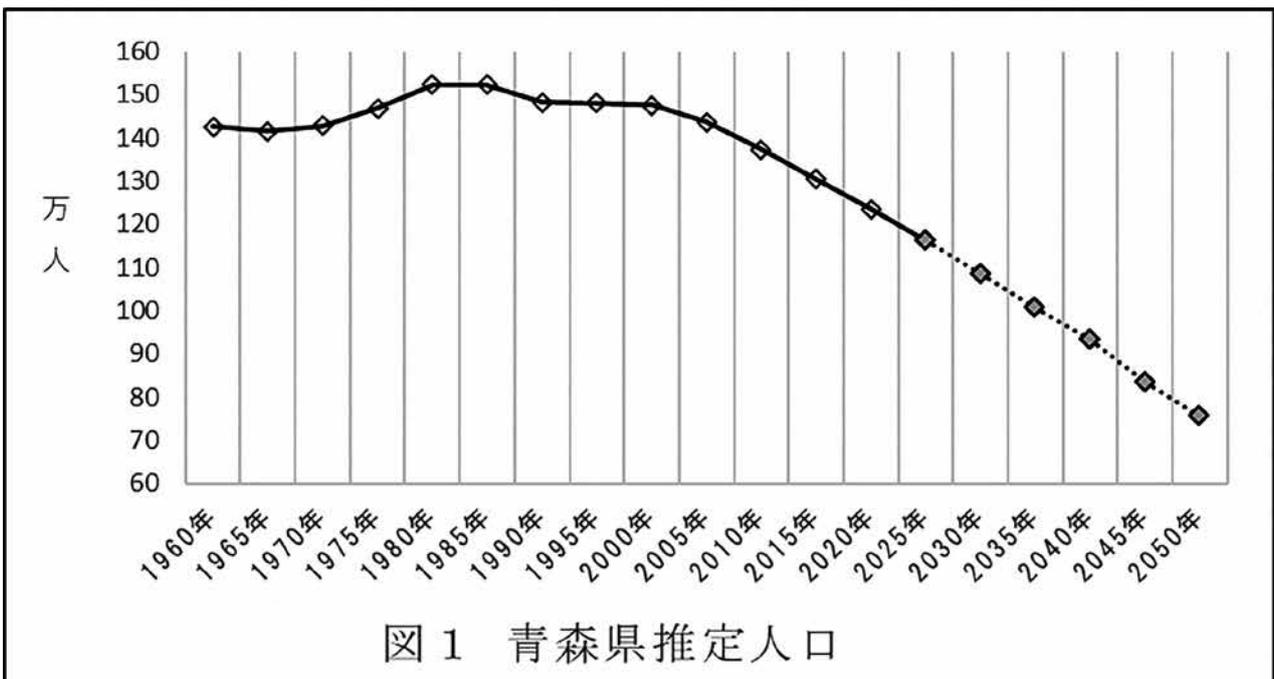


図1 青森県推定人口

数値の特徴を確認しました。

厚生労働省のデータは、狂犬病予防法第4条に基づき登録された犬の実数です。

狂犬病予防法では、「犬の所有者は、犬を取得した日（生後90日以内の犬を取得した場合にあっては、生後90日を経過した日）から30日以内に、厚生労働省令で定めるところにより、その犬の所在地を管轄する市町村長（特別区にあっては、区長）に犬の登録を申請しなければならない。」と定められており、犬が死亡したときや犬の所在地が変わったとき、所有者が変わったときは30日以内に届け出ることとされています。

そのため、生後90日以内の犬を含む登録等の手続きが行われていない犬の情報は統計に反映されません。

一方、（一社）ペットフード協会のデータは、全国の20～79歳の男女個人にインターネットによるアンケートを行い、統計処理して算出されたものです。調査対象者はインテージ社のネットモニターの中から適格者を抽出して調査を実施し、回収された結果を総務省統計局の人口推計に準じたエリア・性・年代の構成比で推計したものとことです。

厚生労働省のデータは年度集計、（一社）ペットフード協会のデータは年次集計であり集計期間が異なりますが、犬の頭数の推移を見るために両データの比較を表1に示しました。

また、（一社）ペットフード協会のデータは都道府県別に出されていないため、厚生労働省の都道府県別登録頭数を参考に青森県の推定飼育頭数を算出しました。

平成25年から令和4年までの10年間で全国、青森県とも頭数が減少しており、登録数と推計値の差は全国で平成25年の196万頭から令和4年の99万頭へ、青森県で平成25年の1万9千頭から、令和4年の8千頭へと縮まっています。

## 2 犬の頭数データの差

前述のとおり、両データには集計期間や実数と推計値の違いなどがありますが、100万頭もの差が生じる要因は何でしょうか。

大型犬等による事故において、その犬が未登録であったとのニュースを目にすることがあるので、未登録犬による事故等情報を収集してみました。

その結果、令和6年に発生した次の2事例がヒットしました。

さらに検索したところ、事故の事例ではありませんが、自治体の面白い取組みを見つけました。広島県安芸高田市のホームページです。

犬の登録義務違反防止のため、未登録犬死亡の際の火葬料金を通常の5倍と高く設定しています。

表1 犬の登録頭数と推定頭数

(頭)

年※1	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4
全国登録頭数	6,747,501	6,626,536	6,526,897	6,452,279	6,326,082	6,226,615	6,154,361	6,107,548	6,095,230	6,067,716
推定頭数※2	8,714,000	8,200,000	7,994,000	8,200,000	7,682,000	7,616,000	7,579,000	7,341,000	7,106,000	7,053,000
差	1,966,499	1,573,464	1,467,103	1,747,721	1,355,918	1,389,385	1,424,639	1,233,452	1,010,770	985,284
青森県登録頭数	66,436	64,445	62,478	60,430	58,476	56,608	55,254	53,175	52,131	51,026
推定頭数※3	85,802	79,747	76,522	76,799	71,010	69,239	68,044	63,914	60,776	59,312
差	19,366	15,302	14,044	16,369	12,534	12,631	12,790	10,739	8,645	8,286

※1 登録頭数は年度集計値、推定頭数は年次の推定値。

※2 （一社）ペットフード協会のアンケートによる推定値。

※3 全国と青森県の登録頭数との比率を算出し、（一社）ペットフード協会の推定値に比率を乗じたもの。

### 事例1

令和6年2月7日

群馬県伊勢崎市

7頭の四国犬中3頭が未登録・狂犬病ワクチン未接種

四国犬1頭が飼育舎から逸走し12名の児童らを噛んで発覚。

書類送検。

### 事例2

令和6年5月22日

北海道鷹栖町

ブリーダーが未登録犬約80頭を飼育。アメリカン・ピット・ブルテリア1頭が逸走し発覚。

行政指導。

### 広島県安芸高田市HP 原文

狂犬病予防法により、犬の原簿登録は飼い主の義務となっていますが、室内犬をはじめ未登録犬が相当数いると推察しています。

登録義務違反の防止を目的として、安芸高田市葬斎場「あじさい聖苑」での未登録犬の死体の火葬を行う際は、市外金額（市内金額の5倍）の火葬料を適用します。

飼い犬のすべてが死亡後に火葬処理されるとは限りませんが、未登録犬を削減する取組みとしてはユニークな方法であると感じました。

この安芸高田市の火葬料金改正は2023年10月に行

われたので、東京都知事選に立候補し世間で話題を集めた石丸伸二前市長のアイデアかもしれません。

未登録犬による事故事例や安芸高田市の取組みからも未登録犬が相当数存在し、登録頭数と推定飼育頭数に大きな差が生じているものと考えられます。

## 3 犬の飼育頭数の推移

犬の頭数の推移を見るために厚生労働省のデータを用いて減少率を算出したものが表2です。

全国の登録頭数は、平成25年度の675万頭から令和4年度に607万頭になり70万頭弱（10%）減少しています。毎年の減少率は0.2～1.8%（平均1.2%）で、ここ数年は1.0%未満になっています。

青森県の登録頭数は、平成25年度の6万6千頭から令和4年度の5万1千頭へ、10年間で1万5千頭（23%）減少しています。毎年の減少率は2.0～3.8%（平均2.9%）で全国の減少率の倍以上になっています。

最新の令和5年度の登録頭数データは本県のみですが、登録数50,144頭で882頭減少（減少率1.7%）となっています。ここ数年の減少率は2%程度で、減少速度が鈍化傾向にあると感じます。

少し古いデータですが、「都道府県別統計とランキングで見る県民性（todo-dan.com）」では、2016年度の犬の登録頭数と都道府県人口を集計し考察を加えています。その結果、全国では人口100人あたり5.14頭の犬を飼育しているとのこと。

表2 犬の登録頭数と減少率

(頭)

年度	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4
全国	6,747,201	6,626,536	6,526,897	6,452,279	6,326,082	6,226,615	6,154,361	6,107,548	6,095,230	6,067,716
減少数	-	120,665	99,639	74,618	126,197	99,467	72,254	46,813	12,318	27,514
減少率 (%)	-	1.8	1.5	1.1	2.0	1.6	1.2	0.8	0.2	0.5
青森県	66,436	64,445	62,478	60,430	58,476	56,608	55,254	53,175	52,131	51,026
減少数	-	1,991	1,967	2,048	1,954	1,868	1,354	2,079	1,044	1,105
減少率 (%)	-	3.0	3.1	3.3	3.2	3.2	2.4	3.8	2.0	2.1

飼育頭数の多い順に示すと香川県（7.23頭）、三重県（7.14頭）、群馬県（6.20頭）となっています。

逆に少ない順では、東京都（3.81頭）、秋田県（3.85頭）、山形県（3.86頭）、福井県（4.17頭）、鳥取県（4.29頭）です。

また、登録頭数は、太平洋岸で多く日本海岸で少ない傾向で、雪が少なく天気がいいところで犬の登録頭数が多いとのこと。

なお、青森県は4.83頭で全国第35位となっており、犬の頭数が少ない地域であることがわかります。

#### 4 青森県の今後

青森県の人口の推移は、図1に示していますが、2005年からほぼ直線的に減少すると推定されています。2050年以降は推定されていませんが、どこかの時点で下げ止まるのでしょうか。

それでは、犬の飼養頭数については、どうなるのでしょうか。

今後の犬の飼養について、ペットフード協会が分析した結果を紹介します。

- ① 2019年から新たに犬を飼う人は減少している。
- ② “子どものために” ペットを飼い始める人が増加している。
- ③ 犬を飼う場合、購入する方々が増加している。
- ④ ペットショップにおける犬の価格が上昇し予算と乖離している。
- ⑤ 飼育犬の高齢化が進行している。

平均寿命は14.62歳（2010年比+0.75歳）。年齢構成7歳以上の割合が55%強と過半数を越えており、特に13歳以上の犬が19%を占め、さらに16歳以上も5%程度。

#### ⑥ 医療費や食費が増加している。

2023年の生涯必要経費（医療費・食費）は、平均2,446,068円。

（	超小型犬	：2,554,012円	）
（	小型犬	：2,382,200円	）
（	中・大型犬	：2,559,186円	）

以上のことから、犬の飼育頭数が減少することは間違いないのですが、減少率を抑制するためには、犬を飼う経済的に豊かなファミリー層が重要な鍵となっていると考えられます。

ファミリー層という言葉は漠然としていますが、一般的には子育て中の家庭のことを広い意味で呼んでいるようで、年齢的には20～40歳のことだそうです。

少子化が進んでいるとはいえ子育て世代の割合は多く、さらに孫を持つ高齢者も取り込める可能性の高い市場とのことです。老若男女を問わず幅広い層を一気に取り込めるファミリー層へのマーケティングが成功したら、様々な事業にもプラスの影響を与えるそうです。また、35～40歳の方々は、安定的な収入、子供の将来への投資、家族の幸せなどの思いが強いと言われています。

さて、表3には犬の登録頭数を推測するため2020

表3 青森県の推定登録頭数

年	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
推定人口比率	53,175	49,960	46,677	43,391	40,092	35,849	32,466
5年毎に10%減少すると仮定	53,175	47,858	43,072	38,765	34,888	31,399	28,259
令和4年度の減少率(-2.1%)で推移	53,175	47,821	43,007	38,677	34,783	31,281	28,131
生産年齢人口比率	53,175	48,582	44,334	40,076	35,511	29,225	25,466
ファミリー層比率	53,175	46,222	40,205	35,245	31,422	27,632	24,154

年の登録頭数から、次の五つの方法で単純に計算してみました。

- ・推定人口に対する比率から推計
  - ・5年毎に10%減少すると仮定
  - ・毎年、令和4年度の減少率2.1%で減少すると仮定
  - ・生産年齢人口（14～59歳）の減少に対する比率
  - ・ファミリー層（20～40歳）の減少に対する比率
- なお、世帯数比率も考えてみましたが、2050年までの減少率はわずか4.7%と低く、ほぼ横ばいであることから除外しました。横ばいの原因は、核家族化の進行と一人世帯の増加（独身者の増加と高齢化世帯の増加：夫婦暮らしで、連れ合いが亡くなっても世帯数は減少しない。）によるものです。

その結果、2050年の頭数は

- ① 推定人口に対する比率（32,000頭）
  - ② 5年毎に10%減少及び令和4年度の減少率で推移（28,000頭）、
  - ③ 生産年齢人口・ファミリー層（25,000頭）
- と大きく3グループに分類されました。

2050年には28,000～30,000頭の中に納まるのではないかと想像しています。

## 5 狂犬病ワクチン接種頭数

全国と東北6県の狂犬病ワクチン接種頭数を表4に示しました。なお、接種率とは接種頭数を登録頭数で割った数値です。

東北6県の接種頭数は、平成22年度から令和4年度まで順位が変動しておらず、接種頭数が多い順に宮城県、福島県、岩手県、青森県、山形県、秋田県となっています。青森県と岩手県に注目すると、平成27年度は約7,000頭の差があったものの徐々に差が縮小し令和4年度には約4,000頭の差となっています。

一方、青森県をはじめ東北各県の接種頭数については、年々減少し続けています。平成27年度から令

和4年度までの平均減少数は、宮城県で一番多く1年で2,529頭でした。次いで、福島県1,884頭、岩手県1,739頭、青森県1,294頭、山形県881頭、秋田県641頭の順となっています。青森県は東北で4番目に接種頭数が減少しています。

東北6県の接種率は、全国平均を10%以上大きく上回っており、優秀な成績となっています。平成27年度から令和4年度まで山形県の接種率は全国1位となっています。

反対に全国で接種率が一番低いのは沖縄県で40～53%、四国4県は55～65%、沖縄県を除く九州地方7県は55～75%の接種率と低くなっています。

さて、青森県の接種率は、令和元年、2年は全国第3位の接種率でしたが現在、山形県に次ぎ第2位と優秀な成績となっています。

これも市町村担当者の絶え間ない指導の努力と青森県動物愛護センターが実施している接種率が80%を下回る自治体を中心として普及活動を行う「狂犬病予防接種推進事業」の成果だと考えています。

なお、犬の登録頭数と狂犬病予防接種頭数が異なる理由については、いくつかの要因が影響しています。

犬の登録は基本的に生涯1回行われますが予防接種は毎年受ける必要があるのはご承知のとおりです。

死亡した犬の届け出をせず原簿に残ったままになっている場合や引っ越しにより犬の異動情報が転入市町村間で共有されなかった場合、獣医師の判断により狂犬病ワクチンを接種しなかった場合（狂犬病予防注射猶予証明書が発行された場合）、飼主が注射を忘れていた場合、若しくは意図的に注射をしなかった場合などが考えられるのではないのでしょうか。

## 6 まとめ

人口が減少するにつれて、将来的に犬の頭数が減り狂犬病予防ワクチンの接種頭数も減少していくも

のと考えられます。

今後、マイクロチップ登録申請事業が順調に普及した場合には、飼い主さんが逸走したペットや災害発生時に迷い犬となったペットを見つけ出すことができます。

また、飼育する全頭にマイクロチップの装着が義務化され、登録がなされれば未登録犬の問題はなくなるものと考えます。

一方、飼い主の変更などの異動や死亡の届出などが適切に実施されデータに反映されるかどうか、さらに、狂犬病予防法における鑑札の代替となるのか、開業獣医師が検索できる体制が整うのか、今後の状況を見守る必要があります。

人獣共通感染症である狂犬病に対して高いワクチン接種率を保ち、清浄な日本を護っていくことは、私達、獣医師の役目の一つです。

表4 狂犬病ワクチン接種頭数と接種率

(頭)

県	年度	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	平均
青森県	接種頭数	56,195	54,817	53,502	52,042	50,395	49,428	48,444	46,488	45,886	44,446	—
	対前年減少数	—	1,378	1,315	1,460	1,647	967	984	1,956	602	1,440	1,305
	接種率 (%)	84.6	85.1	85.6	86.1	86.2	87.3	87.7	87.4	88.0	87.1	86.5
岩手県	接種頭数	68,166	62,197	60,651	59,276	57,326	55,922	54,068	52,251	49,638	48,510	—
	対前年減少数	—	5,969	1,546	1,375	1,950	1,404	1,854	1,817	2,613	1,128	2,184
	接種率 (%)	92.1	86.2	86.7	88.7	86.2	87.0	86.5	86.4	84.8	84.5	86.9
宮城県	接種頭数	107,861	105,374	103,124	97,626	98,225	95,500	93,140	89,047	88,039	85,420	—
	対前年減少数	—	2,487	2,250	5,498	増599	2,725	2,360	4,093	1,008	2,619	2,493
	接種率 (%)	82.2	81.8	82.1	79.7	88.2	82.0	82.4	80.8	82.1	81.3	82.3
秋田県	接種頭数	36,209	35,430	31,750	33,374	32,256	31,386	30,178	28,832	28,097	27,265	—
	対前年減少数	—	779	3,680	増1,624	1,118	870	1,208	1,346	735	832	994
	接種率 (%)	79.3	79.5	81.6	80.4	79.8	80.0	79.1	78.1	78.7	77.8	79.4
山形県	接種頭数	41,129	40,504	39,622	38,839	37,659	36,733	35,910	34,432	34,178	33,454	—
	対前年減少数	—	625	882	783	1,180	926	823	1,478	254	724	853
	接種率 (%)	93.4	92.9	92.3	92.3	91.4	90.8	90.6	87.8	88.3	88.4	90.8
福島県	接種頭数	82,805	80,447	79,812	78,963	75,748	74,014	71,850	64,768	68,183	66,551	—
	対前年減少数	—	2,358	635	849	3,215	1,734	2,164	7,082	増3,415	1,632	1,808
	接種率 (%)	74.2	73.6	75.3	75.5	75.3	76.2	75.5	69.5	74.3	74.1	74.4
全国	接種頭数	4,899,484	4,744,364	4,688,240	4,608,898	4,518,837	4,441,826	4,390,580	4,286,980	4,320,473	4,299,587	—
	対前年減少数	—	155,120	56,124	79,342	90,061	77,011	51,246	103,600	増33,493	20,886	70,358
	接種率 (%)	72.6	71.6	71.3	71.4	71.4	71.3	71.3	70.2	70.9	70.9	71.3

厚生労働省ホームページ (<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou10/01.html>)から改竄



# 動物愛護フェスティバル2024の開催について

## 青森県動物愛護センター

令和6年9月21日（土）、22日（日・祝）の2日間、動物愛護フェスティバル2024を開催したのでその概要を報告します。

平成18年にセンターが開設されて以来、動物とのふれあいを中心に行ってきた当フェスティバルですが、昨年より趣向を変え、県内で起きている問題を県民の皆様と一緒に考える特別企画を盛り込んでいます。

今年は「犬より後に年を取る」と題して、飼い主の家族構成に応じたペットを飼いきるためのプランニングシミュレーションをして、今後必要になる飼育費用やライフイベントを通じて多くの経費が必



要な時期等を把握し、必要な備えについて考えていただく特別企画を行いました。

←イベントポスター



シミュレーションの様子

シミュレーションを体験された方から、ペットを飼うにあたっては一時の感情ではなく、先を見据え

て検討する必要があることを実感した等の感想をいただきました。

イベントポスターの写真は、譲渡までの1年超をセンターで過ごした老犬で、今回の特別企画の発想のもとになりました。1年超の飼育により老犬の世話にかかる費用や時間を把握できたとともに、シニア期に現れる身体変化や行動変化も記録できました。老犬介護に悩んでいる飼い主の方のヒントになればと思い、センター公式YouTubeチャンネルで動画を配信していますので、視聴いただければ幸いです。



センター公式YouTubeチャンネル

### 9月21日（土）

朝からあいにくの雨で気温も低く、屋外でのプログラムは縮小せざるを得ませんでした。しかし、多目的ホール等を使って命の花プロジェクトの活動報告を行ったほか、ウサギ・カメふれあい、獣医師なりきり体験等屋内のプログラムについては、例年よりゆっくり楽しんでいただけたと思います。



獣医師なりきり体験の様子

また、例年、慰霊碑にお供えする青森支部獣医師会様からの御供物は、慰霊碑が見渡せるポーチに献花台を設けて動物慰霊祭を行いました。



献花台

## 2日目の9月22日(日・祝)

前日に続き2日目も朝から雨でしたが、オープン前から並んで待ってくださる方もおり励みになりました。

雨の降る中、多目的広場で災害救助犬デモンストレーションが行われ、災害時に活躍する救助犬の訓練を披露していただきました。



災害救助犬デモンストレーションの様子

正午からは動物愛護週間啓発ポスター優秀作品に対する表彰式を行いました。今年は、小学生の部8校13点、中学生の部14校55点の作品応募がありました。いずれも力作ぞろいでしたが、事前審査の結果、優秀作品として青森県知事賞、青森県獣医師会賞、青森県動物愛護協会賞及び審査員特別賞が小学生の部、中学生の部から各1点ずつ選定され、加えて入選作品4点が選定され表彰されました。

今後もポスター展を通じ、動物愛護思想の更なる普及を図ることとしています。



各賞受賞作品

上段：獣医師会長賞㊤ 知事賞㊤ 協会賞㊤  
下段：特別賞㊤ 入選㊤・㊤

降雨のため乗馬体験は難しいかと思いましたが、午後から雨が上がり、少しの時間でしたが乗馬を楽しんでいただくことができました。



乗馬体験の様子

2日間にわたって開催したイベントには、のべ829人の来館者があり、公益社団法人青森県獣医師会をはじめ各団体やボランティアの皆様にご協力いただき事故なく無事に終えることができました。この紙面をお借りして改めてお礼申し上げます。

今後とも青森県動物愛護センターへ御支援、御協力をよろしくお願いいたします。

## ペンギンたちの個性あふれる換羽期の姿

青森県営浅虫水族館 加藤 愛

ペンギンたちにとって1年に1度の一大イベント。それは、全ての羽が古いものから新しいものへと生えかわる「換羽」です。当館のファンボルトペンギンたちは毎年10～12月頃に繁殖期を迎え、4～6月頃に換羽期を迎えます。ペンギンの羽は保温性や防水性に優れていますが、羽が古くなるとそれらの機能が弱くなることから、機能を回復する換羽はとても大切なのです。

換羽を行うにはとてもエネルギーを使うので、換羽前には食欲が強まり、たくさんの餌を食べることで体に脂肪としてエネルギーを蓄えます。換羽終了時には脂肪を蓄えて、ふっくらしていた身体もスリムになり、換羽というイベントの大変さを感じます。

換羽中の羽は防水性に欠けるため、自然界では換羽期には海には入りません。魚を獲ることもできないため、換羽前にたくさんの餌を食べ脂肪を蓄えることで、換羽中の絶食に備えると言われています。

飼育下でもプールに入ることは、ほとんどありません。餌は与えると摂餌することが多いですが、食欲はそれほど感じません。換羽はだいたい2週間前後で終了しますが、当館では若い個体ほど早く終了することが多いです。

換羽中は水中には入らず陸場で休んでいることが多くなります。羽が抜け、じっとして動きのないペンギンの様子(図1)に、たびたびお客様からは、「病気ではないか?」と心配されることが多い換羽中の姿ですが、実はそれぞれ個性のある羽スタイルを見ることができる時期でもあります。



図1 換羽開始時



図2 羽スタイル「ライオン」



図3 羽スタイル「モヒカン」



図4 羽スタイル「マフラー」



図5 羽スタイル「マント」

換羽開始時には新しい羽が下から古い羽を押し出すため、羽がボサボサになり身体が膨らんで見えます。そこからどんどん羽が生えかわっていきませんが、個体によりその場所が様々で、ライオンのたてがみのような姿（図2）やモヒカンスタイル（図3）、マフラーを巻いているような姿（図4）やマントを身にまとったような姿（図5）など、キュートで面白い姿が見られます。

動くたびに抜け落ちる羽や歩いた場所に羽の痕跡が残っており、飼育員にとっては掃除が大変になる時期ではありますが、日々変わる羽スタイルを見て

楽しむ楽しい時期でもあります。自ら羽づくろいをしてお手入れができない後頭部や嘴が届かない部分は、パートナーの個体が羽づくろいをしてあげる微笑ましい姿も見ることができます。

また、フンボルトペンギンは胸に1本のラインがあるのが特徴（図6）ですが、幼鳥には胸のラインがありません。（図7）1才を過ぎた頃、初めての換羽を終えると成鳥と同じ模様となります。個体によってこのラインの形や太さ、斑点模様が異なりますが、換羽をしてもその模様が変わることはありません。そのため、個体識別をする時のとても良い目印になります。



図6 成鳥の模様



図7 幼鳥の模様



図8 最高齢個体「赤白」

飼育員一同、毎年換羽の始めから終わりまで見守りたい個体があります。それは、当館のペンギンたちの中で最高齢個体である「赤白」です。(図8)今年で32歳を迎えます。高齢による白内障があるものの、現在は食欲もあり元気に暮らしています。毎年、換羽前に脱羽をしている部分があったり、羽の状態が良くない部分があったりすることがありました。換羽はかなりエネルギーを使うので体調面も含め「赤白」は特に気にして見守っています。今のところ健康状態も良好なため、今後も長生きをサポート

トできるよう頑張っていきたいと思います。

ペンギンの羽の状態は、健康状態を知る重要なバロメーターです。当館のペンギンたちは屋内飼育による日照不足から、ビタミンが不足することも懸念されます。それらを補うためのビタミン剤の投与や体重測定・血液検査などの健康チェックを行いながら、日々注意深く観察しています。ペンギンたちにとって大切な羽を大事に守っていけるよう、今後も健康管理に取り組んでいきたいと思います。

---

## 浅虫水族館イベント・プログラム

浅虫水族館のイベントとして、イルカパフォーマンス スペシャルシートとトンネル水槽のエサやり体験を実施しています。

当日ご来館いただき1階ギフトショップ向かい(ウミガメ水槽横)に設置しておりますチケットをお取りになりギフトショップでご購入ください。なお、チケットは開館と同時に各回分すべてが販売開始となります。

### 1 イルカパフォーマンス スペシャルシート

イルカパフォーマンスを普段は見ることのできないトレーナー目線でご覧いただける日本唯一のスペシャルシートを浅虫水族館ではご用意しております。迫力のあるパフォーマンスを20分間近くで見ることができます。シートは、1組5名様までで2,000円で提供しております。



### 2 トンネル水槽のエサやり体験

長さ15mのトンネル水槽では、「むつ湾の海」を再現しています。ホタテやホヤなどの養殖の様子や、むつ湾に暮らす生き物達の姿を間近で観察できます。

この水槽の真上から魚たちにエサを与えることができます。普段、入ることができないバックヤードを見ることができ、貴重な体験となります。なお、土日祝日の11時からの開始で、参加人数8人まで。一人500円で参加できます。



## 播種型の GME が疑われた MUO の犬 1 例

北里大学附属動物病院 小動物診療センター

動物種：イヌ 品種：トイ・プードル  
 年齢：4 歳 10 ヶ月 性別：避妊雌 体重：1.5kg

## ● 主訴・稟告

2 ヶ月前に突然失明し近医にて網膜変性症と診断された。その後、1 週間前から抱き上げ時に痛がるようになり他院を受診、頸部椎間板ヘルニアの疑いを指摘され本学付属動物病院に紹介来院した。当院受診までケージレストを実施していたが、徐々に自力での起き上がりが困難になってきた。

## ● 神経学的検査

初診時(第 1 病日)：自力歩行は可能であったが、四肢の固有位置感覚低下および上位運動神経徴候を認める。脳神経検査では、両眼の散瞳、威嚇瞬き反応および対光反射が消失しており、視覚経路を障害するような脳疾患が疑われた。

## ● X 線検査

頸椎領域では椎間板腔の狭窄や椎間孔の不透過像といった椎間板ヘルニアを疑う所見や他の明らかな異常所見は認められなかった。

## ● MRI 検査

第 4 病日：全身麻酔下にて MRI 検査を実施した。視交叉から視覚経路にかけて FLAIR で高信号(図 2)、ガドリニウムにて造影増強(図 3)される炎症所見を認めた。また、脳実質(図 2)および頸髄領域にも T2 および FLAIR 高信号が見られ、前脳から頸髄領域にびまん性の炎症像を認めた。

## ● 脳脊髄液(CSF)検査

MRI 実施後に大槽穿刺にて脳脊髄液を回収した。有核細胞数は 84 個/ $\mu$ l、タンパク濃度は 43.4mg/dl と増加していた。細菌培養検査は陰性であった。

## ● 診断

起源不明髄膜脳脊髄炎(MUO)  
 播種型肉芽腫性髄膜脳脊髄炎(GME)を疑う



図 1：頸椎 X 線側方像

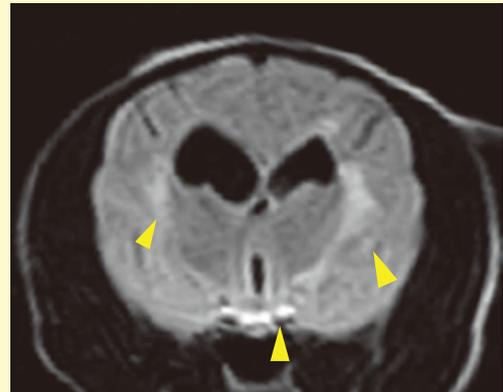
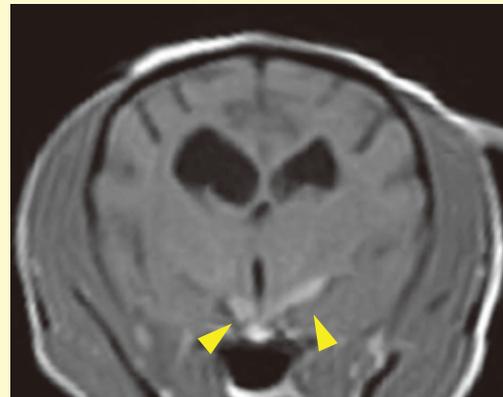


図 2：FLAIR 横断像・高信号領域(矢頭)

図 3：ガドリニウム造影下 T1 強調横断像  
視交叉～視覚経路に造影増強を認める(矢頭)

## ● 治療・経過

MRI 実施前より MUO が最も疑わしく、MRI 検査までプレドニゾロン 0.5mg/kg BID の投与を実施した。MRI および CSF 検査により MUO と診断した直後からプレドニゾロン 1.5mg/kg BID にて免疫抑制治療を開始した。その後、第 18 病日には臨床症状の改善を認めプレドニゾロンを 1.0mg/kg BID、第 32 病日に 0.7mg/kg BID、第 60 病日に 0.7mg/kg SID へと漸減した。0.7mg/kg SID を維持量とした。第 167 病日に臨床症状の再発が見られたため、プレドニゾロンを 1.5mg/kg BID に増量し、シトシンアラビノシドを 100mg/kg にて 2~3 週間毎およびシクロスポリン 5mg/kg BID の併用を開始した。第 280 病日にかけてプレドニゾロンを 0.6mg/kg BID に漸減し治療を実施していたが、徐々に臨床症状のコントロールが困難となり第 422 病日に亡くなった。

## ● ノート

犬の非感染性脳炎として壊死性髄膜脳炎(NME)、壊死性白質脳炎(NLE)および肉芽腫性髄膜脳脊髄炎(GME)等の発生が知られている。これらの鑑別には脳の病理組織診断が必須なため生前診断が現実的ではない。また、何れもステロイド剤を中心とした免疫抑制治療が適応となることから、現在では 3 疾患をまとめて起源不明の髄膜脳脊髄炎(meningoencephalitis of unknown origin : MUO)と分類している。壊死性脳炎は犬種特異性が強くヨークシャー・テリア、チワワ、マルチーズ、ポメラニアン、ペキニーズ、シー・ズーやフレンチ・ブルドッグなどの若齢期(中央値 2 歳 : 4 ヶ月~9 歳)に好発する。また、GME は犬種特異性が低いものの、4-8 歳齢をピークとした若齢から中齢の小型犬における発症が多い。MUO の臨床症状は病変発生部に依存し意識レベルの低下やてんかん発作、運動失調や不全麻痺、前庭障害などを呈し、複数の神経症状を認めることも少なくない。

本症例の治療を実施していた当時は、プレドニゾロン単独で治療を開始し、必要に応じて他の免疫抑制剤を併用していた。しかし、本症例の様に臨床症状の再発が生じたり、プレドニゾロンの減量が困難な症例等も多く、近年では診断時から全症例にシトシンアラビノシドを併用している。また、シクロスポリンは効果を実感できた症例はなく、現在は使用していない。シトシンアラビノシドをルーチンに適応してから、比較的長期に渡り臨床症状をコントロール可能な症例が増加したように感じており、診断から 5 年以上が経過した複数例の治療を現在も継続している。

てんかん発作や意識レベルの低下等といった脳疾患を疑う臨床症状を呈する MUO 症例は、比較的早期に MRI 検査のために紹介来院する例が多いように感じている。一方、頸部の知覚過敏や四肢不全麻痺等の椎間板ヘルニアを疑う臨床症状や、前庭障害、視覚障害が初期の臨床症状として見られた症例では、数ヶ月~半年程度の経過観察後やステロイドの投与と休薬を繰り返した後に紹介来院する例も少なくない。多くの神経疾患ではステロイド剤が緩和的に効くことはあっても、MUO 等の免疫介在性疾患のように著効する例は限られるであろう。MUO 症例に対する経過観察は、病変の拡大や増加を招く危険性がある(図 4)。MUO は早期診断および治療が推奨される疾患であり、好発犬種および好発年齢に該当する症例に対してステロイド投与が著効する際や複数の神経症状を認める際には、MUO 発症の可能性があるため早期に 2 次診療施設への紹介が推奨される。

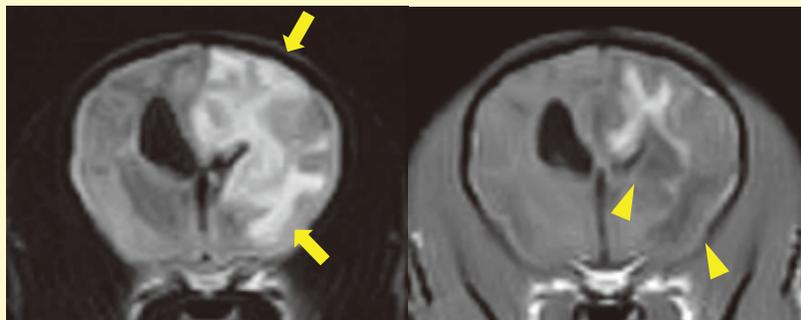


図 4 : 壊死性脳炎が疑われたチワワ 2 歳齢の MRI 画像

FLAIR 横断像(左)

Gd-T1 強調横断像(右)

半年前から壁にぶつかったり、段差を登れず、ステロイド剤の投与・休薬が繰り返されていた。広範囲の炎症(矢印)および複数の壊死巣(矢頭)を認める。

## 悪性腫瘍の関連が疑われた肛門周囲の瘻孔

北里大学附属動物病院 小動物診療センター

動物種：イヌ 品種：ウェルシュ・コーギー  
 年齢：9歳 性別：未去勢雄 体重：12.18kg

## ●既往歴と主訴

〇ヶ月前より肛門右側に疼痛を伴う出血を認め、気にして舐めており、元気食欲の低下も認めた。近医にて消炎鎮痛剤（ピロキシカム）および抗生剤（ビクタス）を処方され、やや改善する傾向が認められたが、創面からの排膿が生じ、閉鎖する様子がないため当院へ紹介来院した。

## ●身体検査所見

体温 38.9℃、心拍数 126回/分、  
 呼吸数 84回/分

## ●血液検査所見

## ・初診時

WBC 7.94K/ $\mu$ L , NEU 6.04K/ $\mu$ L  
 RBC 7.32M/ $\mu$ L , HCT 49.5%  
 HGB 17.4g/dL  
 TP 5.8 g/dL, ALB 2.2 g/dL  
 BUN 16.8mg/dL CRE 0.94mg/dL

## ・水腎症発見時

WBC 19.94K/ $\mu$ L , NEU 17.74K/ $\mu$ L  
 RBC 5.37 M/ $\mu$ L , HCT 33.9%  
 HGB 12.3g/dL  
 TP 7.3 g/dL, ALB 3.2 g/dL  
 BUN 236.4mg/dL CRE 8.19 mg/dL

## ●腹部超音波検査所見



・膀胱近傍の腹腔エコー像  
 貯留する腹水を認める。  
 (図1, 赤矢印)



・左腎臓エコー像  
 肥大化した腎臓と腎盂の拡張を認める。  
 (図2, 赤矢印)

・膀胱エコー像  
 肥厚した膀胱と腫瘤の存在を認める。(図3)

## ●CT検査所見

腹部横断面（図4）では  
 肥大化した前立腺（図4, 赤破線）が認められる。

腹部背断像（図5）では  
 肥大化した前立腺（図5, 赤矢印）とその一部が  
 膀胱にまで浸潤していることが認められる。  
 また、その頭側には腹膜炎と思われる  
 炎症像が認められる。（図5, 赤破線）



## ●診断

### 悪性上皮性腫瘍（前立腺癌を疑う）の筋肉内浸潤

## ●ノート

本症例は、初診時に肛門の4時方向に開口した瘻孔から白濁した膿液が常に排泄されている状態であった。瘻孔の位置から、肛門嚢腺の破裂による感染として薬剤感受性試験に基づき抗生物質で治療を行ったが、改善は認められず、CTによる精査を行った。その結果、瘻孔は坐骨結節付近まで到達していたものの、腹腔内までは開通しておらず、瘻孔周囲に腫瘍を示唆する所見は認められなかった。このため、肛門周囲瘻を疑いプレドニゾロン（1 mg/kg ; SID）による免疫抑制療法を行った。肛門周囲瘻は、中高齢の未去勢オスに発生し易く、その原因は不明であるが、肛門周囲の炎症による不快感により自傷し瘻孔が形成される。本症例でも抗生剤治療には反応せず、類似の経過を辿っていたことから、肛門周囲瘻として治療を行なった。しかし、免疫抑制治療によっても瘻孔は改善せず、食欲が低下し、初診時と比較して明らかに消瘦が進行したため、入院による支持療法および強制給餌を行なった。その際に超音波検査によって不整に腫大した前立腺、膀胱内の腫瘤、水腎となった左側の腎臓および腹水が確認され、腹水塗抹の細胞診を行ったところ、悪性上皮細胞を示唆する所見が認められた。しかし、飼い主が追加の検査および治療を希望しなかったため、在宅で経過を観察していたところ、2週間後に無尿となって来院した。超音波検査で膀胱三角部に腫大した腫瘤と両側の腎臓の水腎症を確認し、悪性腫瘍の尿管浸潤による急性腎不全および尿毒症と判断し、飼い主と相談の結果安楽死となった。

本症例では、腹水が認められるまで悪性腫瘍と瘻孔に関連を見出すことはできなかった。著者らは過去にイヌにおいて口腔内の巨大瘻孔に遭遇し、残存する周辺組織の病理的検索を行なったが、腫瘍の関連は認められなかった。このため瘻孔を粘膜フラップにて閉鎖したところ、約半年後に縫合部に扁平上皮癌が発生した。このことから、初めに認められた瘻孔は、扁平上皮癌の自然脱落によるものと考えられた。扁平上皮癌のような周囲への浸潤性が高く増殖速度の速い腫瘍は、増大するにつれて、腫瘍に流れ込む血液からの栄養供給が不十分となり、微細血管が脆弱化して易出血性となることや、タンパク合成が不十分になることで虚血状態になり壊死して脱落し、このような自然脱落は原発巣の特定を困難とする。本症例では瘻孔に腹腔内への連続性がなく、周辺組織においても腫瘍を示唆する所見を認めなかった。このためCT撮影前立腺の腫大が認められていたにもかかわらず、腫瘍の可能性には考えが及ばず、診断的治療を継続することとなった。

前立腺癌の発生率は、犬の全腫瘍の0.2~0.6%とその発生は稀であるが、周辺組織への浸潤性は高く椎体などへ浸潤することが知られる。このため、本症例においても前立腺由来の腫瘍の関連を初診時より疑い精査するべきであった。もちろん周辺組織に浸潤し脱落するレベルまで腫瘍が進行している場合、治療は困難である。もちろん診断がついたとしても予後が大きく変わったとは言えないが、診断が遅れ、飼い主に時間的、経済的な負担をかけてしまったことは猛省すべきである。

本症例に限らず、原因が不明な疾患や、治療に対する反応が思わしくない場合には、様々な可能性を除外せず、診断や治療方針を再検討するべきであり、本学は2次診療施設であることから、侵襲性が高くリスクが伴ったとしても積極的に検査を行い診断および治療する責務がある。今回の症例でも、抗生剤に対する治療に反応しなかった時点でステロイド治療に移行するのではなく、再度CTによる精査をしていれば腫瘍の進行を発見し、早期に診断できていた可能性もある。ヒトと比べ、獣医医療においてCTやMRIの撮影は、全身麻酔を必要とし、そのハードルは比較的高く、患者自身の肉体的負担とともに飼い主の経済的負担は軽視できず、頻回での撮影は麻酔リスクやコストを引き上げることとなる。しかし、獣医医療においては動物自身が症状を訴えることができない以上、より多く、より正確な情報を得ることに努めなければならぬということを本症例で再認識した。

## (一社) 弘前市弥生いこいの広場と動物達の紹介

弘前支部 豊澤直子

令和5年4月から一般財団法人弘前市みどりの協会(所属:弥生いこいの広場)に勤務しています。

青森県内唯一の動物園である動物広場を紹介したいと思います。



弥生いこいの広場は、弘前市の岩木山のふもと2合目辺りにあります。昭和58年に弘前市が市民のレクリエーションの場として開設し、平成23年4月1日財団法人弘前市公園緑地協会から一般財団法人弘前市みどりの協会へ名称変更し移行されました。弘前市だけでなく近隣市町村の幼稚園、保育園から高校等、多くの子供たちや生徒が遠足等で訪れてきています。

弥生いこいの広場は、事務室、食堂、休憩場所があるハイランドハウスを中心に、日本の野生動物を中心とした動物広場やオートキャンプ場があり、家族で一日中楽しめる施設です。眼前には、ミズナラ、ブナの自然林が広がり、周辺には八甲田山や津軽平野を眺めることができます。

開園期間は、4月中旬から11月初旬までで、冬期間は積雪量が多いため閉園しています。ちなみに、今年度の開園期間は令和6年4月12日(金)から11月10日(日)まで、動物広場は月曜が休園日です。

ただし月曜日が祝日、ゴールデンウィーク、夏休み期間は開園しています。



動物広場ではタヌキ、アナグマ、ハクビシン、アライグマ、ニホンリス、ニホンザル、ツキノワグマ、ノウサギ、イノシシ、ホンシユウジカ、ポニー、ヤギ等の哺乳類やアヒル、チャボ、烏骨鶏等の鳥類といった身近にいる動物や、近隣県で見られる日本産動物などを主に飼育展示しています。この他にオグロプレーリードッグ、ラマ、黒鳥、エミュー、ペンギン、ケヅメリクガメといった動物園ならではの動物もいます。私が担当している、又は、していた動物たちを紹介します。

### オグロプレーリードッグ

動物広場に入ると、オグロプレーリードッグが可愛らしい姿で迎えてくれます。北アメリカ大陸の草原に巣穴を掘ってくらしている体長30~40cm、体重1kg前後の齧歯目リス科の動物です。背筋を伸ばして見張りをしているもの、一生懸命に土を掘り、穴の入口の土を両手でバンバンと固めて見張り台を作っているもの、ぷっくりしたお腹を見せて

座っているものなど見ていてほっこりする飽きない動物です。夕方には、外の放飼場から寝室がある飼育小屋に収容します。収容後、放飼場にできた巣穴入口を毎日、飼育員が埋め戻します。巣穴は長いトンネルになっているようで、入口の穴が小さいのに何でここにこんなに土があるのだろうと思う場所や最近放飼場を歩いていると柔らかい部分があり、足が落ちるのではと思うところもあります。穴の入口から先がどう曲がりくねっているか放飼場の地下がどう繋がっているのか見てみたいものです。小さい身体でも土を掘る、固める力が強く、毎日、埋め戻すこちらの方が疲れます。



## シロフクロウ

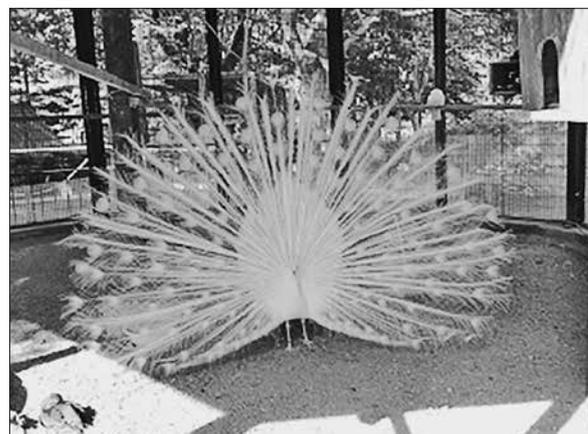
続いて、2羽の雌シロフクロウ、昼間は目を細めて笑っているような表情が可愛いです。



冬はユーラシア大陸、北アメリカ大陸の高緯度地方に生息し、日本には北海道に冬鳥として少数が秋から冬に生息しているそうです。食事は夕方の1回

で、鶏肉等を入れたバットを持っていくと待っていましたと、扉の前に来て待ち構えます。扉を開け中に入るとバットに載った肉に向かって2羽が同時に飛んで来て、その肉を銜えたり足でつかんで飛び去ります。食事をするお気に入りの場所があるので、そこに持って行き背中をこちらに向け誰にも取られないようにと、こそこそ食べているように見えます。初めは自分に向かって来る鋭い爪と嘴に恐怖を感じましたが、これまで私の手を掴んだことはありません。油断はできませんが、ひとまず安心しました。

## シロクジャク



フライイングケージでは、シロクジャクのペアが見どころです。春は恋の季節、羽を広げて出迎えてくれます。しかし、性格が強い雄クジャクは、自分の縄張りに入って来た飼育員に容赦がありません。ケージ内に入って下ばかり見て掃除をしていると足音もしないことからどこにいるのかわからなくなります。すると、突然、背後から飛び蹴りにあいます。かなりの衝撃です。こちらは戦うつもりは全くなく逃げながら掃除しているのに、腕や足をつんつん突いての攻撃や何回も飛び蹴りされ、早々に降参してそそくさと退出します。毎日、お邪魔しますと言って入っているのに、ご飯もあげているのにと思います。バックヤードにもシロクジャクとインドクジャクがペアで各々の部屋にいます。掃除に入るとまず、雄が目の前に立ちほだかり、雌は遠くに離

れます。そして、つんつん突いて攻撃して来る強い雄が多いです。また、シャモロックやハッカもクジャクと同じように、掃除に入ると雄が雌の前にさっと進み出て立ちはだかり雌や縄張りを守る様子が見られます。

このような、雄が前にさっと出て来る姿は頼もしいなと思い、動物の本能を感じます。しかし、中には飼育場に入ると逃げるおとなしい雄もいて、ホッとします。

一方、チャボや烏骨鶏の雄は雌と一緒に逃げて、ご飯をあげると先に雌が食べ始め、雄は後ろで食べたいなーと遠巻きに見ている姿が愛らしいです。

## エミュー

雄のエミューのシュー君1羽がいます。シュー君は、水浴びが好きで夏の暑いときにホースでシャワー状に水を撒くとその下に来て、喜んで座っています。また、溜まった水の中に座り、くつろぐ姿が見られます。水浴びが好きなのはシュー君だけかと思いいネット検索したところ、他の動物園のエミューたちも大好きなようで、冬にプールに入るものもあるようでした。



性格は神経質で、除雪車、除雪機、重機等の大きな音が苦手です。大きな音が聞こえると放飼場を走りながら右往左往して、時にフェンスや壁で首や足を傷つけてしまい床一面が真っ赤になり、飼育員がびっくりすることもあります。これは大量の血液で真っ赤になったのではなく床に水を少量流してい

て、右往左往するから赤くなった水が広がったり飛び散ったりで床が一面血だらけのようになるだけでした。でも、初めて見た目の前の真っ赤にびっくりでした。

この6月、雌のエミューが東北サファリパークから来園しました。うまくペアリング出来ればいいなと思っています。

## ケヅメリクガメ

中央から南アフリカに生息するケヅメリクガメのラオウ君、人にとっても懐いています。人を見ると寄って来て「外に出たいよー」、「背中をさすってよー」と前足で飼育フェンスを登ろうとするアピールがすごいです。秋から春にかけての寒い時期と朝夕は屋内にいますが、暖かくなり、天気の良いときには野外の放飼場に出ます。体重が約39kgあるため、女性飼育員1人では運べません。朝は2人で屋内から屋外にエッチラホッチラ持って運びます。夕方は、飼育員と一緒に20mほどを歩いて帰ります。周りに生えている草が食べたいので、好きに歩かせると前に進みません。このため、大好きなタンポポやフキを鼻の前にちらつかせて、寄り道しないよう歩いて帰ります。また、飼育員の赤い手袋も気になるようで、手袋をした手を叩きながらこっち、こっちと手招きしながら帰ります。とても可愛いと感じる時です。

50年以上生きるそうで、現在12歳なので、まだまだ元気でいられます。



## フンボルトペンギン

現在、ペアが4組います。繁殖期には、巣材として与えている小枝をくわえて、せっせと巣箱の中に運びます。自分の巣箱に小枝が十分あって山になっ

たところに雌が座っているのに、それでも足りないと思うのか、雄が他の巣箱に行って奪って来ます。そこの主が居ないとわかると、せっせと運んで来ます。居ても突っつかれながらも奪って来る強者もいます。また奪われたら取り返すものもいて、これらはそれなりに多く小枝が確保されます。一方、取られればなしの所は数本の上にさみしく雌が座っています。今は繁殖できないので、偽卵を利用しています。



Instagram hirosakiyayozooより

## ラマ

ラクダの仲間の家畜として飼われ人に懐くようなのですがヤマト君は、人に懐いていません。警戒心が強く、人との距離を取って立ちます。毛が絡まってもさもさしているのですが、ブラッシングしたいけど、できないので、ずっともさもさしています。自分では砂場で寝ころがって身繕い、冬は雪に寝転がって身繕いしています。でも、もさもさしています。夏場は暑いから何とかしてあげたいけど、大きなお世話なのかなとも思います。

## ニホンザル

ニホンザルは、9頭います。昨年は、2頭が赤ちゃんを出産しましたが、残念ながら1週間ほどで2頭とも死亡してしまいました。赤ちゃんザルが泣いていることが多く、母乳を飲んでいないのかな、扱いが少々乱暴だなと思って見ていました。しか

し、どうすることもできず、死亡してしまいました。母ザルは亡くなった赤ちゃんザルをずっと抱きながら動いていて、離そうとしないため、母ザルが急いで逃げるようにすれば赤ちゃんザルを放すだろうと飼育員が脅し、何とか亡くなった赤ちゃんザルを確保しました。ある動物園では、チンパンジーが1か月近く亡くなった赤ちゃんを抱き続けている、というニュースを見ました。母の気持ちが痛いです。

## ツキノワグマ

雌のチビとルナ2頭がいます。2頭とも子熊の頃から動物広場にて人に慣れています。慣れていると言っても、同じ空間に居られる程ではもちろんないです。飼育員が行くとちょっとした動作をしてくれます。チビは、飼育員が扉の前に来ると立った状態でぐるりと一回転します。一回転したらご褒美にリンゴを一口あげています。もう一頭のルナは、一回転が出来ず半回転で背中を向けて立ちます。まあ、出来たということで、リンゴをあげています。クマはこれを進化させて、治療が必要な時に注射が出来るようになればなと思っています。

山の中の動物園で、野鳥のさえずりを聞いたり、カナヘビや昆虫を捕ったり、「展示舎から逃げています」とお客さんから指摘される野生の動物も見られることがあります。

また、ニホンリスやイノシシの子供が誕生し、今のところ、順調に元気に成長しています。良かったら、見に来てください。



# クマに出会ったときのことで

上十三支部 小笠原 清 高

## 1 はじめに

相次ぐクマの目撃情報や人身被害の発生が後を絶ちません。実を言うと、私は釣りをしているクマに出会ってしまったことがあります。まさか、自分がクマに出会うとは……。自分は大丈夫だろうと、高を括っていたのでしょ。ちなみに、私が出会ったクマはツキノワグマです。

この後、クマに出会ったときのことをお話しますが、話の中に「十和利山クマ襲撃事件」で駆除されたクマ、「スーパーK」の名前が時々出てきます。あらかじめ、この「スーパーK」が起こした事件についてお話しておきます。

「十和利山クマ襲撃事件」は本州史上最悪の獣害として知られるクマによる人身被害です。それは、2016年5月中旬頃、秋田県鹿角市大湯熊取平の山中で4人がクマに襲われて死亡、全ての遺体は食い荒らされ、枯れ草や土が覆うようにならされていたそうです。主犯とされる雄グマは人食いグマ「スーパーK（鹿角市の頭文字）」と名前がつけられました。しばらくの間、大きく、新聞やニュースで報じられることになりました。

## 2 話は10年前にさかのぼります

ちょうど10年前になるでしょうか。その日は朝から異常に暑く、魚も隠れてしまったのか……。1匹も釣れず、イライラしていました。クマに出会ったのはそんな憂鬱な日でした。

クマに出会ったときのことは、今でも鮮明に憶えています。それは、鹿角市大湯熊取平で起こった「スーパーK」による人身被害事件の2年前の2014年7月上旬、詳しくは、7月6日、日曜日の10時頃のことです。場所は、鹿角市の湯瀬温泉から岩手県寄りの米代川上流付近、川岸から5～6mくらい離

れた川の流れに私がいました（図1）。



図1 熊が出没した鹿角市湯瀬温泉付近

そろそろ釣りをやめて帰ろうと思った矢先、目の前の川岸からヨシの茎がパチパチと折れる音、葉がサラサラと擦れる音が近づいてきます。「まさか！」その時、私の頭の中では苦い記憶が甦っていました。

## 3 記憶の中のクマは

川岸から近づいてくる音、そこから甦った記憶とは、数年前にやはり溪流釣りでクマに出会ったときのことです。季節は梅雨明け間近だったと思います。場所は鹿角市大湯熊取平の山中で、突然、対岸の笹藪からクマが現れたのです（図2）。



図2 熊が出没した鹿角市大湯熊取平付近

笹藪から現れたクマは、体長1m弱、剛毛で黒光りし、目の粘膜は真っ白で、クリッとした黒く輝く眼球（いわゆる黒目）が印象に残っています。私との距離はわずか3mくらいでした。クマは喉が渴いていたのか、沢水をゴクゴクと音を立てながら飲み始めました。そして、クマが沢水を飲み終わっておもむろに首を上げたとき、私の存在に気づいて驚いたと思います。私も恐怖のあまり、声も出ず、呆然とその場に立ち尽くしてしまいました。はっと我に返った私は、ジィ〜とクマと目を合わせ、ゆっくりと後ずさりしてその場を離れることができました。

今にして思えば、出会ったクマは、もしかしたら人を襲う前の「スーパーK」だったのかも知れません。

#### 4 目の前に現れたクマが、いきなり突進してきました

話を元に戻しましょう。目の前のヨシの藪から現れたのはクマ、それも成獣です。体長は1m30cmくらいか、それ以上か？ 立ち上がれば、私よりも大きかったような気がします。

クマは私を見つけるなり、いきなり雄叫びを上げ、牙をむき出して突進してきました。目は大きく見開き、私を睨みつけています。私の頭の中は真っ白です。私はとっさに釣竿を握り締め、両手を上げ、全身で“大の字”のポーズを何度も何度も作りました。その瞬間、クマはその場に立ち止まりました。それでも、クマは立ち上がっては“ギャアギャア”と悲鳴に似た叫び声を上げ、狂ったように前足で地面を叩き威嚇してきます。立ち上がった姿はまるで興奮した雄ゴリラそっくりでした（実際に見たことはありませんが）。一瞬「やばい、殺られるかも！」私は“大の字”のポーズを崩さず、クマを睨みつけ、川の流れに足を取られないよう、ジワッ、ジワッと後ずさりをしてどうにかこうにか川を渡りることができました。

たどり着いた川岸は藪に覆われた急斜面で無情に

も行く手を阻んでいました。まあ、正直に言って、クマに追い詰められてしまったようなものです。

#### 5 何か様子が変わります

川岸に着くと、私は川べりの柳の木に寄り掛かっていました。クマの激しい威嚇は容赦なく続いています。私は……ただただ、クマを睨みつけるだけでした。

睨み合いは2、3分か、いやそれ以上続いたかもしれません。しばらくすると、何かクマの様子がおかしいことに気がつきました。クマはしきりに後ろを気にするようになりました。よく見ると、クマの後ろ側は高さ10m程の樹木が何本か自生しています。そのうち一本の木の枝に、真っ黒い、フサフサとしたぬいぐるみの様な子グマがしがみついているじゃないですか。そうです、親子のクマだったので。子グマの大きさは、見た目、体長30cm、体重5kgくらいでしょうか？ 親グマは子グマを守るために攻撃的になっていたわけです。その子グマは木に登ったものの、どうしたらいいのか分からず、おどおどして、怯えているようにも見えました。そのうち、子グマは枝伝いに滑り落ちてしまいました。その後、子グマは小走りでヨシの藪の中に消え、それを追いかけるように親グマも走り去りました。

しばらく、私はその場を立ち去ることができませんでした。クマが居なくなった安堵より、再び、クマが舞い戻ってくるかもしれないという恐怖もあったかもしれません。

#### 6 クマが立ち去った後

親子のクマが立ち去って、ともあれ、命拾いしましたが……。

その後、私ですか？ このまま済むわけがありません。川岸の藪を掻き分け、たぶん道があるだろうと思われる方角を目指して突き進みました。そして、進むこと、20分間くらい？ なんとか道に出る

ことができました。車は道から2～3km離れた所にありました。私はくたくたになりながら車に辿り着くことができました。時間はお昼前だったと思います。

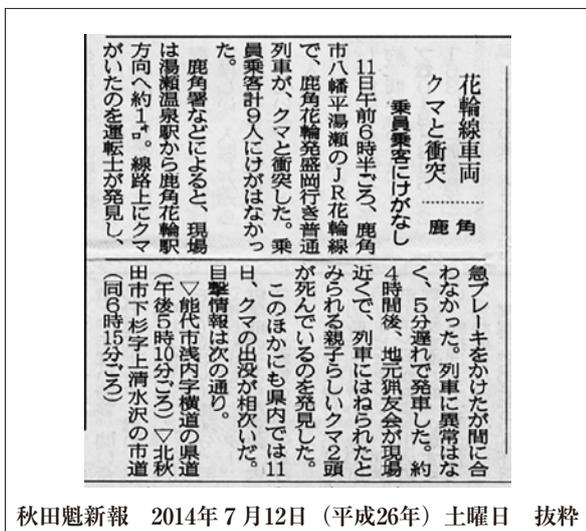
太陽の光は容赦なく叩きつけ、身体は汗びっしょり、顔、手、腕は擦り傷だらけ、おまけに、ウエーダーは破れ、釣竿は折れ、何もかもがぼろぼろになってしまいました。なにか、重～い敗北感で打ちのめされた感じでした。

それ以来、私は釣りに行くことも少なくなりました。今は、ほこりを被った釣り道具一式が部屋の片隅に整然と置かれています。

## 7 意外な結末がありました

このお話には、まだ、続きがあります。それは、川で出会った親子のクマのことです。

私が所用で実家のある鹿角市に寄ったとき、偶然、新聞の記事でその親子のクマと再会することになりました。



「花輪線車両 クマと衝突」これは7月12日発行、秋田魁新報の片隅にあった小さな見出しです。列車と衝突したのは、すぐに、あの親子のクマだと直感しました。出会った場所の近くをJR花輪線が走っています。思うに、クマは遠くに行かず、立ち去った場所の辺りをうろうろと動き回っていたの

か、出会って5日後の11日の早朝に誤って？ 線路に入り列車にはねられたようです。

いたずらに動き回る子グマとそれを追いかける親グマが目に見えます。

## 8 おわりに

ここで、どうしてもお話しておきたいことがあります。それは、私が冬にクマを目撃したことです。目撃した時期は、今から6年前のお正月、2018年1月6日、土曜日の8時30分頃だったと思います。私は、食鳥検査の仕事で十和田市から横浜町に向う途中でした。

目撃した場所は野辺地町雲雀平で、野辺地町と横浜町の境界付近です。横浜町に向って国道279号を走行、大畑線雲雀平の踏み切りを越えて間もなくだったと思います。いきなり黒い生き物が、そう、体長80cmくらいのクマが車の20m先に現れました。クマは車を先導するように除雪直後の雪上をスリップもせず、不器用な格好で30m程走り、道路脇の雪の壁を乗り越え、雪の中に飛び込みました。見事にクマが宙に舞っていたのをよく覚えています。余計な事を書いてしまったようです。

冬眠しないクマの存在は以前から各地で報告されています。広島県のNPO法人「日本ツキノワグマ研究所」の米田一彦所長によると、どうやら、「暖冬により寒さに耐えられるようになったこと」や「放置生ゴミや果実を食べて栄養を蓄えられるようになったこと」などが影響しているとのことでした。

最後に、クマの出没による人身被害等の危険性が高まってきています。クマによる事故を防ぐためには、まずはクマの生態を理解し、出会わないようにすることが重要です。

クマによる事故を防ぐためにより詳しく知りたい方は、青森県環境エネルギー部自然保護課ホームページに掲載している「クマに注意!!」「ツキノワグマ出没対応マニュアル」、「クマの被害にあわな

い！」などを参考にしてください。

## 追伸

会報に載る頃は、クマの出没が少なくなってきている時期かもしれません。

環境省によると、令和5年度のクマの出没件数は平成21年度以降で過去最多になりました。例年は6月をピークに減少し、10月に再び増加する傾向にあったのが、令和5年度は9月に早くも出没が急増したそうです。ヒグマを含むクマ類の人身被害は198件（219人、うち死亡6人）と平成18年度以降で過去最多を記録してしまいました。

最近、クマは人への警戒心が薄れてきているようです。人を恐れず、積極的に人を襲う極めて危険なクマも現れてきました。人身事故の発生している地域では入山が禁止されています。「積極的に人を襲う極めて危険なクマも存在する」これは、とても恐ろしいことです。

いつ、どこで、クマに遭遇するのか予測できない危険性が付きまとっています。クマに出会って「助かる方法」は……断言できる方法はないと思います。クマに遭遇しないよう、クマがいるような場所に近づかないことが絶対です。



## 令和7年度 公益社団法人青森県獣医師会検査員募集

公益社団法人青森県獣医師会では、平成15年度から青森県の委任を受け、28名の本会獣医師会員が県内6か所の食鳥処理場において食鳥検査業務に従事しております。

令和7年度採用予定の検査員（獣医師）を下記のとおり募集します。

### 1 募集人員

常勤検査員 若干名

### 2 応募資格

- (1) 獣医師（本会会員であること。）
- (2) 鶏病性検査の経験を有すること
- (3) 満65歳以下（採用時）

### 3 募集期間

令和6年10月15日から10月31日まで

### 4 業務内容

食鳥処理場において食鳥検査業務等に従事

### 5 採用予定年月日

令和7年4月1日

### 6 就業場所

- (1) 県内6食鳥処理場（十和田市、三沢市  
横浜町、五戸町、田子町、階上町）
- (2) 公益社団法人青森県獣医師会  
食鳥検査センター（十和田市）

### 7 提出書類

- (1) 履歴書（市販のもので可）
- (2) 獣医師免許証の写し
- (3) 提出先：募集期間内に右記の問い合わせ先へ提出（郵送可）。

### 8 選考方法

- (1) 書類審査の後、面接試験を実施します。
- (2) 面接試験の日時・場所は、後日応募者に通知します。
- (3) 採用の場合、直接本人に通知します。

### 9 待遇・勤務条件等

- (1) 給与：本会給与規程による
- (2) 賞与：年間 5.55か月
- (3) 諸手当：通勤手当、住居手当、寒冷地手当  
単身赴任手当、移転料等あり
- (4) 福利厚生：健康診断、社会保険
- (5) 退職金制度：有
- (6) 勤務日数：原則として週5日
- (7) 勤務時間：基本7時間45分  
(8：30～17：00 休憩時間12：00～12：45)  
※ただし、食鳥処理場の稼働時間に合わせ出退勤する。
- (8) ①休暇・休日：日曜、祝日、年末年始  
②有給休暇（食鳥処理場稼働日は勤務）

### 10 その他

応募書類等は、応募に関する事務のみに使用し、その他には使用しません。

#### 【お問い合わせ先】

〒030-0813

青森県青森市松原二丁目8番2号

☎ 017-722-5989 FAX 017-722-6010

公益社団法人青森県獣医師会事務局

担当：盛田

## ◎会員の動向

(1) 会員数（正会員） (人)

令和5 年度末	令和6年度		令和6年 9月30日 現在
	入会	退会	
397	6	11	392

(2) 支部別正会員数 (人)

青森	弘前	三八	西北	上十三	下北	計
59	28	108	23	153	21	392
6	1	3	1	8	2	21

(下段は名誉会員数で内数)

(3) 退会会員

支部	氏名	所属（勤務先等）
三八	成田 澄子	-
	小西香菜子	やすだ動物病院

(4) 逝去会員

支部	氏名	逝去年月日	年齢
三八	一山 泰見	令和6年9月8日	74歳
上十三	竹内 重正	令和6年9月15日	78歳

(5) 賛助会員

会員数	1
名称	株式会社クレディセゾン

## ◎事務日誌

## 1 事務関係

(1) 令和6年度第4回理事会

期日：令和6年9月13日（金）

場所：青森市 青森県獣医師会館

参集：理事・監事、税理士事務所長

内容：公2剰余金、会費等について

出席：事務局長、事務局次長、事務局

## 2 食鳥検査事業関係

(1) 令和6年度第1回食鳥検査技術研修会

期日：令和6年7月6日（土）

場所：十和田市 サン・ロイヤルとわだ

内容：①鶏病理検査・アデノウイルス感染症

②食肉・食鳥肉衛生の最近の動向

参集：処理場業者、家畜保健衛生所、食肉衛生

検査所、検査員、特定事業運営委員

センター所長他

出席：会長、事務局長、事務局次長、事務局

(2) 第3回養鶏管理獣医師研修会

期日：令和6年7月19日（金）

場所：東京都 AP新橋

内容：鶏衛生管理、鶏疾病等

出席：松本主任検査員

(3) 第2回特定事業運営委員会

期日：令和6年9月6日（金）

場所：青森市 青森県獣医師会館

内容：公2剰余金、全国情報連絡会議発表演  
題、職員の採用等について

出席：各委員、センター所長、次長、事務局

## 3 狂犬病予防・動物愛護関係事業

(1) 狂犬病予防・動物愛護管理対策担当者会議

期日：令和6年7月1日（月）

場所：青森県動物愛護センター

内容：狂犬病予防注射接種対策等

参集：県内市町村担当者、動物愛護センター

出席：各支部長・事務担当者、事務局長ほか

(2) 多頭飼育問題に関するフォーラム

期日：令和6年9月11日（水）

場所：青森市 観光物産館アスパム

内容：多頭飼育問題解決・未然防止

他機関連携先進事例（講演）

参集：県内市町村、動物愛護団体、県

出席：事務局次長

(3) 動物愛護フェスティバル2024ポスター表彰

期日：令和6年9月22日（日）

場所：青森県動物愛護センター

出席：会長、事務局長

#### 4 部会開催関係

(1) 会報部会

期日：令和6年8月26日（月）、9月17日（火）

場所：青森市 青森県獣医師会館

内容：令和6年10月発行・第200号会報編集

出席：会報部会委員、事務局

#### 5 東北獣医師会連合会関係

(1) 令和6年度東北地区獣医師大会・獣医学術東北

北地区学会支援関係者打合せ会議

期日：令和6年9月9日（月）

場所：青森市 青森県獣医師会館

出席：各支部事務局、県職員、事務局

(2) 令和6年度東北地区獣医師大会運営委員会

期日：令和6年9月24日（火）

場所：青森市 ホテル青森

参集：日本獣医師会、東北各県・市獣医師会

内容：大会運営について

出席：会長、副会長、事務局長、事務局次長、事務局

(3) 令和6年度東北地区獣医師大会

期日：令和6年9月24日（火）

場所：青森市 ホテル青森

参集：農水省、厚労省、環境省、日本獣医師会  
東北各県・市獣医師会、一般市民

内容：議事（日本獣医師会への要望事項）  
市民公開講座（三内丸山遺跡センター長）  
農水省獣医師倫理講座

出席：会長、副会長、事務局長、事務局次長、事務局、各支部事務局ほか

(4) 令和6年度獣医学術東北地区学会実行委員会

期日：令和6年9月25日（水）

場所：青森市 ホテル青森

参集：各学会長、副学会長、幹事

内容：令和6年度獣医学術東北地区学会の進行

出席：事務局長、事務局次長、事務局

(5) 令和6年度獣医学術東北地区学会

期日：令和6年9月25日（水）

場所：青森市 ホテル青森

参集：発表者、学会長、副学会長、幹事

内容：産業動物学会22題・小動物学会29題・獣  
医公衆衛生学会18題 合計69題の口演

出席：畜産課、保健衛生課、家畜保健衛生所

動物愛護センター、食肉衛生検査所、各

支部事務局

事務局長、事務局次長、事務局

#### 6 日本獣医師会関係

(1) 男女ともに獣医師として活躍を続けるための  
セミナー

期日：令和6年7月9日（火）

場所：十和田市 北里大学獣医学部

内容：（有）小比類巻家畜診療サービス・小比  
類巻獣医師及びあっぷる獣医科病院・山  
田獣医師による実体験談セミナー

参集：日本獣医師会 畠山主任

岡野学部長、獣医学科4年生学生

出席：会長、事務局長

(2) 全国獣医師会事務事業推進会議

期日：令和6年7月19日（金）

場所：東京都 都市センターホテル

内容：日本獣医師会事業内容説明、質疑応答等  
参集：全国地方獣医師会事務局長、事務局職員

鳥海副会長、日獣専務理事・事務局長・

事務局次長・事務局職員

出席：事務局長、事務局

(3) 令和6年度第4回理事会  
期日：令和6年9月10日（火）  
場所：青森市 青森県獣医師会館（Web会議）  
参集：藏内会長ほか役員、日獣事務局長ほか  
出席：会長

(4) 令和6年度全国獣医師会会長会議  
期日：令和6年9月20日（金）  
場所：東京都 明治記念館  
参集：藏内会長ほか役員、日獣事務局長ほか  
出席：会長、事務局長

(5) 藏内会長世界獣医師会次期会長就任祝賀会  
期日：令和6年9月20日（金）  
場所：東京都 明治記念館  
参集：藏内会長、役員、日獣関係者ほか  
出席：会長、事務局長

(6) 2024動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day”  
期日：令和6年9月21日（土）  
場所：東京都 駒沢オリンピック公園  
参集：全国地方獣医師会ほか協賛企業等  
出席：会長、事務局長、事務局次長、事務局

## 7 その他

(1) 牛の検査材料保冷施設運営協議会総会  
期日：令和6年7月24日（水）  
場所：青森市 青森県庁会議室  
出席：会長、事務局長、事務局次長

(2) 国スポ・障スポ実行委員会第2回総会  
期日：令和6年7月29日（月）  
場所：青森市 ホテル青森  
出席：会長

(3) 青森県装蹄師会第37回通常総会  
期日：令和6年7月30日（火）  
場所：十和田市 サン・ロイヤルとわだ  
出席：会長

(4) 令和6年度獣医師講習会  
期日：令和6年8月6日（火）

場所：東北町 青森原燃テクノロジーセンター  
出席：会長

(5) 畜産研究所新庁舎開所式  
期日：令和6年8月8日（木）  
場所：野辺地町 畜産研究所  
出席：会長、事務局長

(6) 豚熱に係る防疫対策会議  
期日：令和6年8月9日（金）  
場所：県庁 東棟538会議室  
出席：事務局次長

(7) 令和6年度野生獣衛生対策講習会  
期日：令和6年8月23日（金）  
場所：東北町 青森原燃テクノロジーセンター  
出席：会長

## 8 支部関係

(1) 三八支部獣医師会・獣医事講習会  
期日：令和6年7月26日（金）  
場所：八戸市 八戸プラザホテル

(2) 西北支部獣医師会・犬猫慰霊祭  
期日：令和6年9月1日（日）  
場所：つがる市 つがる市斎場

(3) 三八支部獣医師会・動物慰霊祭  
期日：令和6年9月20日（金）  
場所：八戸市 大慈寺

(4) 下北支部獣医師会・犬猫供養祭  
期日：令和6年9月27日（金）  
場所：むつ市 円通寺

(5) 弘前支部獣医師会・弘前支部動物感謝デー  
期日：令和6年9月29日（日）  
場所：弘前市 弥生いこいの広場

### 編集後期的な200号発刊を迎えて・・・

今号では、歴代委員長からの投稿を頂戴いたしました。元委員長の工藤洋一先生からは軽妙な筆致での五・七・五調タイトル見出しに感心しました。また、長年の原稿集め、原稿起こし、編集のご労苦、学術的な部分だけでなく会員相互の思い、経験などの公表に対する思いや記録の大事さをご教授頂きました。

さらに、前委員長の沼宮内春雄先生からは、編集と結びつく思い出と反省、今後へのご期待を頂きました。

2019年7月から委員長を拝命し、40号近く会報に関わっている現職といたしまして身の引き締まる思いです。

今後、現在の編集委員の方々とお話をしていかなければならないと思っている私個人の考えですが・・・

会報をどのようにしていきたいか（できれば、学術的な原稿を増加と考えていましたが、一概に、そうでもなさそう）、発行に当たって苦労したこと（原稿が集まらない。結果的には編集委員に依存していても構わないとの歴史を伺って心強く感じました）、投稿原稿の採択（ページ数の調整のため、無理矢理シリーズ的に継続原稿に変更したり、時期的に今回掲載しなければならない原稿を後回しにして、結果的に掲載に至らなかった原稿の存在がありました。出来るだけ掲載する方向が望ましいと改めて認識しています。また、近時に同様な原稿が掲載され、内容が焼き直して新規部分がないものについて不採用としたものが1件ありましたが、折角、意を決して寄稿して頂いた原稿であるので、他の編集委員の意見も伺って、多少方向性を変えて原稿を再依頼するなど載せるための努力が必要）、編集作業でスタイルの統一を図ったために、投稿者にとって不本意な印象を与えてしまった事例が1件ありました。

編集、編纂では筆を入れられないのが常識と言われれば返す言葉ありませんが、特に学術的な原稿では発行後の投稿者の恥になりそうな部分については代替案や質問を送る事は必要と思っています。

数年に1度であっても投稿規定の再掲も必要と感じました。

参考までに、編集委員会で悩みながら話し合ったことの例ですが

- ・文章中のアラビア数字は、一桁は全角、それ以上は半角。千以上の数字には紀元以外は「,」区切りを入れる。アルファベットは状況が許せば半角。
- ・「新年あけましておめでとうございます」と言う言葉は正しくないのでは？新年とあけましては同一の内容なので「新年」か「あけまして」を削除すべきではないのか？
- ・御挨拶。御苦労様等の「御」は、公式で儀式的なもの以外は、出来るだけ「ご」とする。
- ・「わたる」は空間的なものは「渡る」、時間的なものは「亘る」に、判断が難しいものは「わたる」と平仮名表記にする。

など、枚挙にいとまがありません。今後とも、辞典やネットを活用しながら話し合っていきたいと思っています。

最近の会報の編集はメールでの原稿やりとりや、文章フォームの統一など便利な面もあります。

我々、現在の編集委員会も過去のメンバーと同様な苦労、悩みを抱えています。「継続は力なり」という言葉に力を頂きながら続けていくことが与えられた使命と考え頑張っていきたいと思っています。

会員皆様の暖かいご支援と建設的なご意見、そして積極的なご投稿をお待ちしています。

A.N

## 獣医師会2024年のゴルフコンペの結果について

青森支部 沼宮内 春 雄

先にご案内しました、9月22日（秋分の日）のゴルフコンペは前日からの秋雨前線と温帯低気圧のため中止となりました。

私を含め参加予定者は、楽しみにしていたため、開催できないことが非常に残念でした。

また、折角、青森支部会長の成田憲雄先生に青森県獣医師会会長杯を準備していただいたのにお披露目することができませんでした。成田先生ありがとうございました。

来年2025年は、9月第1週木曜日にゴルフコンペを予定していますので、多くの参加者の方々をお待ちしております。

会員の皆様、奮ってご参加ください。



青森県獣医師会会長杯

多くのペナントリボンが、歴史を感じさせます。

### 原 稿 募 集

令和7年1月1日発行予定の会報第201号の原稿を募集いたします。

会員各位の投稿のほか、各支部獣医師会だよりの原稿もお願いいたします。

原稿は、投稿規程を参照して作成し、次の方法で青森県獣医師会にお送りください。

締切り日は11月25日（月）です。期日までをお願いいたします。

#### 〔原稿の提出方法〕

原稿は原則としてMicrosoft Wordで2段組み、23字×37行で作成し、ファイルは電子メールに添付して本会事務局に送信してください。なお、原稿ファイルがWord以外で作成された場合は、使用したソフトをお知らせください。

手書きの原稿や、大容量（20MB以上）の写真を含む原稿ファイルはCD-R等に記録し、本会事務局に郵送してください。

本会事務局住所：〒030-0813 青森市松原二丁目8の2

電子メールアドレス：ao-vet@smile.ocn.ne.jp



Gazing at the future



ZENOAQ

動物の価値を高めること。  
それが、私たちの使命です。



日本全薬工業株式会社  
福島県郡山市安積町笹川字平ノ上1-1

[www.zenoaq.com](http://www.zenoaq.com)



# はたらく環境づくり

## Activity Based Working



# Technol



東北化学薬品株式会社

TOHOKU CHEMICAL CO., LTD

OUR SERVICE

研究分野の試薬・消耗品・機器 トータルソリューションを提供する

食品分野

農業資材分野

ヘルスケア分野

臨床検査試薬分野

化学工業薬品分野



明治アニマルヘルスは  
狂犬病の予防啓発に取り組んでいます。

飼い主の皆さまへ向けて



リーフレット  
「狂犬病について考えてみよう」



アニメーション「狂犬病ワクチンを注射しましょう」



動画はこちら



**meiji** 明治アニマルヘルス株式会社  
熊本市北区大窪一丁目6番1号

※本剤は要指示医薬品であるので獣医師等の処方箋・指示により使用してください。

# YES! we do

癒す



動物のこと考えてます。



私達は動物用医薬品の供給により

動物・ペットの様々な病気を癒すサポートをし、

さらにそれが人々の心の癒しとなることを願います!

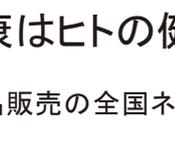
## 株式会社 アグロジャパン

本社・〒950-0134 新潟県新潟市江南区曙町5丁目1番3号

北東北営業部 青森チーム TEL・0176-23-7231 FAX・0176-24-0290



メディバルグループ



### 動物の健康はヒトの健康につながる

- 動物用医薬品販売の全国ネットワークを駆使し、あらゆる動物の健康を守ります。
- 安全な畜水産物の生産をサポートし、食の安全・安心と自給率の向上に貢献できる会社を目指します。



## MPアグロ株式会社

本社 〒061-1274 北海道北広島市大曲工業団地6丁目2番地13  
TEL 011(376)3860 FAX 011(376)2600  
<http://www.mpagro.co.jp/>

東北営業部 青森支店 TEL 0178-20-2011 FAX 0120-446902

事業所一覧

東京本部・岡山オフィス・福岡オフィス  
札幌・旭川・北見・帯広・釧路・函館・青森・秋田・盛岡・山形・仙台・東京・北関東  
大阪第一・大阪第二・兵庫・岡山・広島・山口・鳥取・島根  
高松・徳島・松山・宇和島  
福岡第一・福岡第二・熊本・宮崎・鹿児島・鹿屋  
AHSC(アニマルヘルスサポートセンター)  
MPアグロ  
札幌・帯広・盛岡・関東・御津・各物流センター

今までも、これからも。  
「生命の未来」のために尽くしたい。

獣医師・畜産用医薬品，ワクチン類，器具機材，  
プレミックス製造販売総合商社

# 小田島商事株式会社

代表取締役社長 小田島 隆

本 社	岩手県花巻市卸町66番地	TEL 0198(26)4151
青森営業所	青森市問屋町2丁目13番18号	TEL 017(738)1224
八戸営業所	八戸市大字大久保字小久保尻17-4	TEL 0178(34)2284

## ● 営業所一覽 ●

花巻営業所	TEL 0198(26)4700	旭川営業所	TEL 0166(46)0270
大船渡営業所	TEL 0192(26)4740	札幌営業所	TEL 011(813)1300
横手営業所	TEL 0182(33)5404	帯広営業所	TEL 0155(58)1380
古川営業所	TEL 0229(26)4567	北海道物流センター	TEL 0155(58)1381
山形営業所	TEL 023(633)5333	釧路出張所	TEL 0154(31)5575
酒田出張所	TEL 0234(26)4666	プレミックス工場	TEL 0198(26)4726
福島営業所	TEL 024(553)6678	家畜衛生食品検査センター	TEL 0198(26)5375
		卸センター給油所	TEL 0198(26)4822

## 第21回 アジア獣医師会連合 (FAVA) 大会

# アジアワンヘルス福岡宣言 2022

ワンヘルスは、動物と人の共生社会づくり、生物多様性や環境の保全などによって、地球や社会の持続的な発展を目指している。

現在、世界では、COVID-19、新型インフルエンザ、重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) など人と動物の共通・新興感染症の国境を越えた発生や、薬剤耐性 (AMR) が大きな課題となっている。

このようなことから、FAVA 加盟国は、連携・協力してワンヘルスを実践しなければならない。

我々 FAVA 加盟獣医師会及び所属する獣医師は、ワンヘルスの先進地である福岡県において開催された第21回 アジア獣医師会連合 (FAVA) 大会の成果を踏まえ、「FAVA 戦略プラン 2021-2025」に基づくワンヘルスアプローチを一層発展させ、その実践活動をアジア・オセアニア地域から世界に向けて発信することを決意し、以下のとおり宣言する。

1. 新興・再興感染症を含む人と動物の共通感染症の予防及びまん延防止に万全を期するため、感染源、感染経路及び宿主対策についての調査・研究体制を整備するとともに、情報の共有に努める。
2. 薬剤耐性菌が医療と獣医療において重大な脅威となっていることから、抗菌剤の慎重かつ適正な使用を徹底し、薬剤耐性 (AMR) 対策を推進する。
3. 動物と人が共生する社会を構築するため、生物多様性の維持や地球環境の保全を積極的に推進する。
4. 獣医学教育の更なる整備及びワンヘルスアプローチによる国際連携により、WOAH (OIE) Day One Competencies (獣医師が具備すべき知識・技能・態度) を有する獣医師の育成に取り組む。
5. 医療関係団体、行政機関、市民団体及び大学、WVA、WOAH (OIE)、WHO、FAO、UNEP などの国際機関と協力し、ワンヘルスの課題解決と推進に取り組む。
6. アジアにおけるワンヘルスの課題への研究と児童、生徒及び市民に対するワンヘルス教育の普及のために、FAVA 活動の拠点を整備・強化する。



令和4年11月13日 ヒルトン福岡シーホークにて開催された「第21回 アジア獣医師会連合 (FAVA) 大会」にて調印。



## 日本獣医師会・獣医師会活動指針

### —動物と人の健康は一つ。そして、それは地球の願い。—

- 1 地球的課題としての食料・環境問題に対処する上で、生態系の保全とともに、感染症の防御、食料の安定供給などの課題解決に向け、「人と動物の健康は一つと捉え、これが地球環境の保全に、また、安全・安心な社会の実現につながる。」との考え方 (One World-One Health) が提唱され、「人と動物が共存して生きる社会」を目指すことが求められている。
- 2 一方、動物が果たす役割は、食料供給源としてのほか、イヌやネコなどの家庭動物が「家族の一員・生活の伴侶」として国民生活に浸透するとともに、動物が人の医療・介護・福祉や学校教育分野に進出し、また、生物多様性保全における野生動物の存在など、その担うべき社会的役割は重みを増すとともに、一層多様化してきている。
- 3 他方、国民生活の安全・安心や社会・経済の発展を期する上で、食の安全性の確保や口蹄疫、トリインフルエンザ、狂犬病等に代表される新興、再興感染症に対する備えとともに、家庭動物の飼育が国民生活に普及する中で動物の福祉に配慮した適正飼育の推進が、更には、地球環境問題としての生物多様性の保全や野生鳥獣被害対策を推進する上での野生動物保護管理に対する関心が高まってきている。
- 4 我々、獣医師は、「日本獣医師会・獣医師倫理綱領 獣医師の誓い — 95年宣言」が規定する専門職職業倫理の理念の下で、動物に関する保健衛生の向上と獣医学術の振興・普及を図ること等を通じ、食の安全性の確保、感染症の防御、動物疾病の診断・治療、更には、野生動物保護管理や動物福祉の増進に寄与するとの責務を担っている。
- 5 獣医師会は、高度専門職業人としての獣医師が組織する公益団体として、獣医師及び獣医療に対する社会的要請を踏まえ、国民生活の安全保障、動物関連産業界の発展による社会経済の安定、更には、地球環境の保全に寄与することを目的に、「動物と人の健康は一つ。そして、それは地球の願い。」を活動の理念として、国民及び地域社会の理解と信頼の下で、獣医師会活動を推進する。

#### 【参 考】

「One World-One Health」とは、動物と人及びそれを取り巻く環境（生態系）は、相互につながっていると包括的に捉え、獣医療をはじめ関係する学術分野が「ひとつの健康」の概念を共有して課題解決に当たるべきとの考え。2004年に野生生物保全協会（WCS）が提唱した。また、国際獣疫事務局（OIE）は、2009年に「より安全な世界のための獣医学教育の新展開」に関する勧告において、動物の健康、人の健康は一つであり生態系の健全性の確保につながるとする新たな理念として「One World-One Health」を実行すべきである旨を提唱している。

令和6年10月15日

発行所 青森市松原二丁目8の2

公益社団法人 青森県獣医師会

T E L 017(722)5989

F A X 017(722)6010

Email [ao-vet@smile.ocn.ne.jp](mailto:ao-vet@smile.ocn.ne.jp)

印刷所 青森市幸畑松元62-3

青森コロニー印刷

T E L 017(738)2021

F A X 017(738)6753